



SunAllomer Ltd.

CSR REPORT

2026

Excellent Company

サンアロマーは、社会に有益で、適正な収益に裏付けられた持続的な発展を追求し続けます！

- ・ 健康・安全・環境(HSE)の改善に取り組む会社
- ・ 品質の良い製品と優れたサービスを提供する会社
- ・ いかなる環境においても、確実に利潤を上げる会社
- ・ 創造性を発揮し、新しい製品や仕組みを産み出す会社
- ・ 現状に満足せず、常にチャレンジする会社
- ・ 社員が誇りと自信を持ち積極的に行動する会社
- ・ 社員全員が経営者の視点で行動する会社
- ・ 高い倫理観を持って行動する会社

CONTENTS

サンアロマーについて.....	4
トップメッセージ	4
事業紹介	5
サンアロマーの取り扱い商品	5
サンアロマーの研究開発	10
企業倫理・コンプライアンス	11
コーポレート・ガバナンス（主な会議体など）	13
CSR	14
CSR マネジメント	14
ステークホルダーとのかかわり	17
レスポンシブル・ケア	19
マネジメントシステム	20
環境への取り組み	21
環境保全	24
保安防災	31
労働安全衛生	36
BCP（事業継続計画）の取り組み	44
品質保証と製品安全管理	45
取引先とのかかわり	48
人権・労働慣行	49
会社情報	53
会社情報	53
財務・非財務データ	55

編集方針

サンアロマーは CSR の考え方や具体的な活動について、ステークホルダーの皆様へ情報共有をする目的で、サンアロマー CSR レポートを発行しています。当レポートでは、環境や社会への配慮をご紹介します。

作成部署

サンアロマー株式会社 環境安全・CSR 推進室
Tel 03-5781-5617

ホームページ <https://www.sunallomer.co.jp/>

報告媒体について

ウェブサイトには本冊子の PDF 版を掲載しています。

報告対象期間

原則として 2025 年 1 月～12 月までを対象としています
が、2026 年 1 月以降の情報も一部含まれます。
「年」と記載があるものは 2025 年 1 月～12 月、「年度」と記載があるものは 2025 年 4 月～2026 年 3 月の範囲を対象としています。

報告対象組織

本文中の記述についてはサンアロマー株式会社を対象としています。

発行

2026 年 8 月

参考としたガイドライン

日化協 レスポンシブル・ケアコード Ver.No:2.0



サンアロマーについて

トップメッセージ

あす
“明日の暮らしを PP で支える”

SunAllomer Ltd.

代表取締役社長
坂本 浩基



サンアロマー株式会社は、暮らしを支えるポリプロピレンという素材を通じて、利便性の向上と社会の持続的発展に寄与してきました。

当社は「顧客第一主義」を礎に、確かな品質、差別化された製品、そして迅速で誠実な対応を追求しており、今後もお客様との協創を通じて課題解決に取り組み、社会から求められる価値を着実に提供してまいります。

環境への配慮と安全は、事業活動における最重要テーマです。トップレベルの安全管理体制を維持・強化し、環境負荷低減に向けた取り組みを堅実に進めることで、持続可能な社会との調和を図ります。

サンアロマーの最大の財産は「人」です。社員一人ひとりが高い倫理観と情熱を持ち、創意工夫を発揮できる企業文化を育み、挑戦を讃え合える組織を目指しています。社員の成長を支え、その力を結集することで、変化を超える価値を創出してまいります。

これからもサンアロマーは、社会・お客様・社員から信頼される企業として、ポリプロピレンの可能性を広げ、未来に向けた価値創造を続けてまいります。

*PP(ポリプロピレンの略)



事業紹介

最も成長が期待される汎用樹脂 ポリプロピレン(PP)の開発・製造・販売を行う

研究・技術開発

製造

販売



サンアロマー株式会社はクラサスケミカル株式会社、ENEOS 株式会社を株主とする合併会社で、汎用樹脂ポリプロピレンの開発・製造・販売を行っています。

サンアロマーは、他社との差別化を図りながら、独自の特徴・ノウハウを高め、お客様に支持されるサプライヤーとなることを目指します。

サンアロマーの取り扱い商品

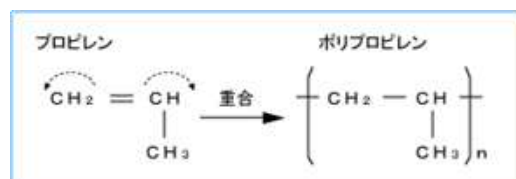
ポリプロピレンとは？

ポリプロピレンはプラスチックの中でも比較的安価でもっとも軽く(密度 0.9g/cm³)、高融点(160℃以上)で成形加工が容易なため、自動車部品、家庭電化製品、食品包装フィルム、玩具、雑貨などの幅広い分野で需要があります。日本では1年間に約

250 万トン、世界では 8,600 万トン以上が使用されています。また、リサイクル性が高く、燃やしても有毒ガスを発生しないという環境に優しい性質も併せ持ち、使用用途が拡大している樹脂の一つです。

ポリプロピレンの構造

ポリプロピレンはプロピレンの付加重合によって製造されます。重合には Ziegler-Natta 触媒が用いられています。



ポリプロピレンの一般的な特徴

- ・剛性と耐衝撃性のバランスが優れている
- ・耐熱性が優れている (融点 160℃以上)
- ・密度が低い (0.9g/cm³)
- ・耐薬品性が良好である
- ・湿度水分の影響をほとんど受けない
- ・広範囲な加工適性を有する
 - …中空成形、射出成形、押出成形等
- ・環境応力亀裂(ESCR)に対する耐性が優れる
- ・良好な外観を有する
- ・リサイクル性が高い
- ・燃やしても有害ガスを発生しない



幅広い用途が期待できるサンアロマーのポリプロピレン

ポリプロピレンは一般的に、ホモポリマー、ランダムコポリマー、ブロックコポリマーに分類されます。それぞれ特徴と用途は異なりますが、比較的安価で軽く、成形加工が容易なため、自動車部品や家庭電化製品、食品包装フィルム、玩具、雑貨といった幅広い分野で需要があります。

サンアロマーでは成形品の軽量化・低コスト化に寄与する剛性・耐衝撃性のバランスに優れたゴム成分含有量の高いポリプロピレンを開発し、食品包装分野や自動車分野向けで、多様化するお客様のニーズに応える製品を提供しています。



用 途

・食品用トレイ	・透明折箱	・自動車部品
・食品包装フィルム	・透明ボトル	・プラスチックコンテナ・パレット
・梱包用延伸テープ	・クリーニング袋	・家庭電化製品
・飲料用カップ	・不織布	・家庭用雑貨

プラスチック製品の薄肉化・軽量化に向けた高機能ポリプロピレンの開発

サンアロマーでは食品包装、食品容器、自動車部品の軽量化・薄肉化が可能なポリプロピレン製品の開発に力を入れており、下記のようにプラスチック使用量の削減に貢献しています。自動車部品の軽

量化は、ガソリン燃費の向上、CO₂排出量の削減への貢献にもつながっております。

サンアロマーはこれからも、環境に配慮した製品開発に取り組んで参ります。

- ・フィルム分野 / コンビニエンスストア向けおにぎり包装 10%の薄肉化
- ・食品容器 / 食品トレイ 5%の薄肉化、ドリンクカップ、ラーメン容器等 25%の軽量化
- ・自動車部品 / デッキサイド、ドアパネル 20%の軽量化、

サンアロマーのポリプロピレン

サンアロマーは、用途に応じて、様々なポリプロピレン製品を製造しています。製品の情報は、ホームページの製品一覧よりご覧いただけます。

<https://www.sunallomer.co.jp/products/lineup.html>

ここでは、高付加価値製品の一つであるポリプロ

ピレン「クオリア®」、「Vシリーズ」、および「バイオマス製品」についてご紹介します。

【クオリア®】

クオリア®は、ゴム含有量がブロックコポリマーに比べても極めて高く、高剛性・高衝撃性に優れている上に、従来のブロックコポリマーでは劣っていた透明性をランダムコポリマー並みにまで向上させることに成功しています。特に食品包装分野・自動車分野向けで、多様化するお客様のニーズに応えることができ、例えば食品用途では、冷凍から電子レンジまで対応できる高透明容器を、このクオリア®で新たに提案することができます。さらには、お客様の成形加工品での軽量化・減容化を図れるといった特長を保有しています。

クオリア®の用途例

- タッパー容器や柔軟蓋材
- 冷凍：アイスクリーム容器／ソフトクリームのトップカバー／ケーキのドームカバー／アイスケーキのカットケース
- 冷蔵：肉類のブリスターパック／チーズや調味料のケース

クオリア®製品の特徴

特徴1 高い透明性を実現

従来の製品に比べより高い透明性を実現しています。この強みを生かし食品包装分野・自動車分野を中心に幅広い用途での利用を追求していきます。

特徴2 耐寒性耐熱性の高い構造

クオリア®は急激な温度変化に耐え耐寒性と耐熱性を兼ね備えているため、冷凍庫から出した容器をそのまま電子レンジでも使うことができます。マイナス 30℃から 160℃までの広い温度範囲に対応します。

特徴3 高剛性・耐寒衝撃性に優れる

透明性とのバランスを保持しながら高い剛性を実現しています。従来製品に比べ、冷凍環境で割れ難い耐寒衝撃性を保ちます。



特徴4 低減された白化・破損性

白化・破損性が低減され、傷が目立ちにくく、ヒンジ蓋等の用途に最適です。マイナス 20℃落球テストにて、クオリア®は従来の製品に比べ、ほとんど破損が見られないことがわかります(右図;落球テスト結果)。

特徴5 高光沢で発色性に優れる

顔料を添加した際、深い位置に存在する顔料粒子にも光が反射し、深みのある色を出すことができます。また、顔料粒子に反射する光が多くなること



から、同じ色目で顔料を減らすことが可能となり、コストダウンにつなげることができます。

クオリア®は「環境に優しい」高ゴム含有ポリプロピレン

クオリア®はゴム含有量が高く、コストパフォーマンス、リサイクル性に優れます。また環境問題で課題となる軽量化を実現し、LCA の観点からも今後

成長が期待できます。

LCA とは？

Life Cycle Assessment の略です。製品開発、原材料、製造、販売、物流、消費、廃棄・リサイクルを含めた投入資源、環境負荷やそれらによる地球や生態系への影響を定量的に評価する手法のこと。

【V シリーズ】

主にシート用途向けに開発されたポリプロピレン材料「V シリーズ」は、当社の通常材に比べて高い剛性と優れた成形性をあわせ持つことが特長です。

食品包装シート・汎用トレイ分野

食品包装シートや汎用トレイ分野では、製品に必要な強度を確保しながら、より薄く成形できる点が大きなメリットです。剛性向上により薄肉化が可能となり、樹脂使用量の削減や製品の軽量化につながります。また、成形時のドローダウン性が改善されているため、シート成形時の安定性が高まり、生

用途ごとの要求特性に応じて、食品包装分野から産業資材分野まで幅広く展開されています。

産効率の向上も期待されます。さらに、押出機負荷の低減により、低温での成形条件設定がしやすくなり、製造時の臭気低減にも寄与します。

ギフトトレイ・冷凍食品トレイ・米飯容器分野

ギフトトレイ、冷凍食品トレイ、米飯容器などでは、内容をしっかり支える剛性と、安定した成形加工性の両立が重要です。「V シリーズ」は、当社の通常のブロックポリプロピ



レン系材料に比べて高剛性化とドローダウン性の改善が図られており、薄肉化による省資源化と、成形安定性の向上を同時に目指すことができます。これにより、容器の品質向上に加え、成形サイクルの安定化や生産性向上も期待されます。

プラ段など産業資材分野

プラ段用途などの産業資材分野では、剛性の高さに加え、押出時の安定性や生産性が重要になります。「Vシリーズ」では、当社の通常材に比べて押出機負荷や樹脂圧力の低減が確認されており、設備への負担を抑えながら安定した生産が可能です。

材料統合による工程簡略化

一部の用途では、従来、成形安定性を確保するためにポリプロピレンに他素材を配合して使用していました。「Vシリーズ」は、こうした用途においても単一材料での対応可能性を広げ、材料構成の簡素化

持続可能なものづくりへの貢献

このように「Vシリーズ」は、用途ごとに求められる性能に対応しながら、省資源化、軽量化、生産性向上、工程簡略化を実現する材料として展開を進

これにより、生産量の向上や工程の効率化が期待できるほか、薄肉化による軽量化にもつながり、物流面を含めた環境負荷低減にも貢献します。



や工程の合理化に貢献します。使用材料の集約は、製造管理のしやすさ向上や安定供給体制の構築にもつながります。

めています。今後も、用途に応じた材料開発を通じて、環境負荷の低減と持続可能なものづくりへの貢献を目指していきます。

【ISCC PLUS 認証取得とバイオマス製品】

サンアロマーは、持続可能な社会の実現に向けた取り組みの一環として、ISCC(International Sustainability and Carbon Certification) 認証制度の ISCC PLUS 認証を取得し、親会社より供給を受けるバイオマスナフサ由来のバイオマスプロピレンを用いたバイオマスポリプロピレンの生産をしております。

本取り組みは、化石資源への依存低減と温室効果ガス排出量の削減を通じて、環境負荷の低減に貢献するものです。

ISCC PLUS は、バイオマス原料やリサイクル原料などの持続可能性を、サプライチェーン全体で管理・担保する国際的な認証制度です。当社は本認証の取得により、原料調達から製造、出荷に至るまで、適切な管理体制のもとでバイオマス由来原料を取り扱う仕組みを整備しました。

本取り組みでは、マスバランス方式を採用しています。これは、製造工程にバイオマス由来原料と化石由来原料を混合して投入し、その投入量に応じて、製品の一部にバイオマス由来特性を割り当てる管理手法です。この方式により、既存設備を活用し

ながら持続可能な原料の利用拡大を進めることができ、安定供給と環境対応の両立を図ることが可能になります。

サンアロマーが生産するバイオマスポリプロピレンは、従来品と同等の物性や加工性を有しているため、幅広い用途への展開が期待されます。これにより、お客様が製品性能を維持しながら環境配慮型素材へ切り替えることを支援し、サプライチェーン全体での脱炭素化推進にもつながります。

今後もサンアロマーは、環境配慮型原料の活用拡大と高機能材料の安定供給を通じて、資源循環の推進、温室効果ガス排出量の削減、ならびに持続可能な社会の実現に貢献していきます。



バイオマスとは？

バイオマスとは、サトウキビやトウモロコシなどの再生可能な生物由来の有機資源のことです。これらを原料としたプラスチックは、石油資源の使用量を削減し、CO₂排出量の抑制にも貢献します。

サンアロマーの研究開発



研究開発の基本姿勢

サンアロマーは Excellent Company というビジョンを掲げ、「独自の企業文化」で「高付加価値の創造」と「社会との調和」に取り組んでいます。

長年にわたり蓄積された経験とノウハウを活用

し、お客様にご満足いただける製品を提供していきます。



研究開発の目指す姿

独自の特長・ノウハウを高めていくことによって、お客様に支持されるサプライヤーになることを目指します。

高付加価値の創造

新しい用途開拓をお客様とともに行うことで、高機能製品、高付加価値製品の開発を進め、期待を超

えるような新たな価値を社会やお客様に提供する製品を開発します。

社会との調和

CO₂ 排出量の削減や省エネルギー対策等、化学企業として地球環境に配慮した取り組みを進め、社

会との調和を目指していきます。



法令遵守への取り組み

企業として社会からの信頼を得るためには、まず公正性、誠実性が求められます。

サンアロマーは、法令違反の通報を受け付ける社

内・社外窓口(企業倫理ホットライン)の設置やコンプライアンスに関する各種教育などを行うことで、企業倫理の遵守の徹底に努めています。

企業倫理ホットライン

法令遵守の取り組みとして、サンアロマーは法令違反の通報を受け付ける社内窓口を設置しており、全従業員、および主な協力会社従業員が利用できるようになっています。また、外部の相談窓口としてクラサスケミカルグループの契約する弁護士を

指定し、運営しています。社内での法令違反の恐れがある事柄について従業員および主な協力会社従業員は、誰でもこの窓口を通じ問題提起をすることができ、会社はそれに対して対応をとる仕組みになっています。

新入社員への教育

新たに入社、転入した従業員へは、教育ガイドランスに従い、e-ラーニングの必須受講項目を定めて

教育を実施しています。2025 年度入社、転入者全員の教育を完了しています。

コンプライアンス教育(職場トレーニング)

四半期毎に職場内でコンプライアンスに関するディスカッションを行っています。当日参加できなかった従業員は、後日自習および課題を実施することにより、全従業員がトレーニングに参加し、コンプラ

イアンスに対する理解を深めるようにしています。今後も教育レベルの維持・向上に努めてまいります。2025 年に実施した内容は以下のとおりです。

- ・第 1 四半期:e ラーニング「ビジネスと人権 基礎研修」の受講
- ・第 2 四半期:「サンアロマー企業倫理ホットライン窓口」についての説明と職場ディスカッションの実施
- ・第 3 四半期:サンアロマーの各種方針の説明と理解度テストの実施
- ・第 4 四半期:(企業倫理月間活動)e ラーニング「私たちの行動規範の教育」の受講と職場ディスカッション、行動規範に則り行動する旨の誓約書への署名

企業倫理月間活動

毎年企業倫理月間を設け、各種コンプライアンス強化に関する活動に全従業員が参加しております。

2025 年は e ラーニング「私たちの行動規範の教育」の受講の他、次のような活動を実施しました。

- ・企業倫理月間メッセージの配信(中島 CCQO)
- ・『遵法点検』の実施
- ・「私たちの行動規範」を遵守することへの『誓約書への署名』
- ・「私たちの行動規範」と自らの業務との関連についての『職場ディスカッション』

企業倫理月間 CCQO メッセージ(2025 年 10 月)

10 月は例年どおり「企業倫理月間」です。日頃より、年 4 回実施しているコンプライアンス教育へのご参加、感謝致します。

2024 年は、軽微な不適合を含めてコンプライアンス違反ゼロという成果を達成しました。これは、従業員一人ひとりの高い意識と日々の取り組みの賜物です。改めて感謝申し上げます。

～中略～

36 協定は、会社とユニオンとの間で締結する労使協定であり、労働基準法第 36 条に基づく法令上の義務です。協定で定められた範囲を超えて時間外勤務を命じる場合は、事前に所定の手続きが必要です。これを怠った場合、労務管理責任者に対し、6 か月以下の拘禁刑または 30 万円以下の罰金が科される可能性があります。

その他の法令と比較して、36 協定は意識が疎かになりがちですが、法令違反に直結する重要事項です。十分に注意し、適切な運用を徹底してください。

サンアロマーでは事業所単位で 36 協定を締結しており、イントラネットでも掲載されています。

必ず内容を確認してください。また、管理職・監督者の皆様は、36 協定の内容と運用ルールを再確認のうえ、違反の未然防止に努めてください。また、言うまでもありませんが、時間外労働の最少化は、従業員の健康面・メンタル面の維持にも直結します。業務管理と併せて、働きやすい環境づくりにもご配慮をお願いいたします。

昨年、サンアロマーでは内部通報制度の改定を行いました。改正公益通報者保護法に則り、通報者の守秘義務を最大限尊重しながら、誠実かつ慎重に事案対応を行っております。通報・相談の対象ですが、法令違反事案、ハラスメント事案に限らず、相談レベルの内容であっても受付可能となっております。「これは通報すべきか迷う…」という段階でも、躊躇なくご利用ください。皆様の声が、より健全で安心できる職場環境づくりにつながると信じております。

企業倫理月間を機に、改めて法令遵守の重要性を認識し、健全で信頼される職場づくりに向けて、引き続きご協力をお願い申し上げます。

2025 年 10 月 7 日

CCQO 中島 治継

コーポレート・ガバナンス(主な会議体など)

Management Committee(MC :経営会議)

社長決裁事項の諮問機関であり、会社の施策や重要事項の審議および本部間の情報共有を目的としています。

コンプライアンス委員会

広く社会から信頼される企業活動を遂行するためのコンプライアンス体制を構築することを目的とし、全従業員が「倫理に基づく行動」と「法の遵守」を基本におき、良識ある公正な行動が取れるよう

に、基本方針や年度計画を策定し、実施しています。また、コンプライアンスに関する通報・相談を受け付ける「企業倫理ホットライン」窓口を設置し運営を行っています。

レスポンシブル・ケア(RC)委員会

「レスポンシブル・ケアに関する行動指針」を定め、「衛生・安全・環境」の継続的な改善を目的に、年

度目標の審議・決定を行い、本社および各事業所で施策の推進を行っています。

省エネ委員会

省エネルギー活動を推進することを目的に、全社が省エネルギーに配慮した事業活動を行うための

体制とその運営を行い、施策の推進を行っています。

安全衛生委員会

安全衛生管理を適切に推進するため、作業安全の確保および職場衛生の向上並びに従業員の健康増進を図るとともに、災害および事故を未然に防

止することを目的に、各事業所に安全衛生委員会を設置し、審議、施策の推進を行っています。

内部監査

社長直轄の内部監査体制を構築し、自社の事業活動に対して統合内部監査を実施しています。また、各事業所においては認証を受けている各種マネジメントシステムにおける内部監査を実施しております。これらは、サンアロマーの内部監査実施基準に基づいて年間監査計画を作成し、内部監査を実施した後、その結果を各マネジメントシステムに

おけるトップマネジメント、及び必要に応じ取締役会、監査役に報告しています。さらに、会計監査人及び監査役とは、それぞれの監査の独立性に配慮しつつ、年間監査計画、監査結果等につき定期的な報告会を通じて意見交換を行う等、相互に連携を図っています。

CSR

CSR マネジメント



CSR 責任者メッセージ

サンアロマーは、社会に有益であり、適正な収益に裏付けられた持続的な発展を追求し続けるとの信念のもと、50 項目の KPI*を経営指標として設定しています。50 項目のうち、特に重要な指標である、「安全」、「品質」、「環境」、「コンプライアンス」に対しては、重大なインシデントをゼロとすべく GoalZERO というスローガンを掲げ重点管理の対象としています。

「安全」については、事業のすべてに対して優先される事項と位置づけ、以前親会社であったライオンデルバゼル社(世界最大級のポリオレフィンカンパニー)グループの一員として培った世界基準の安全マネジメントシステムをベースとし、現親会社であるクラサケミカル株式会社・ENEOS 株式会社の安全基準を融合した独自の安全マネジメントシステムを構築しています。また設備自体の安全性確保やマネジメントシステムの運用に加え、従業員の行動特性にも着目した安全活動を採用し、さらに高い安全への取り組みを着実に進めています。また、職場環境の改善や時間外労働の抑制を推進し、働き方改革を進めることでより働きやすい労働環境を提供し、労働衛生への配慮を強化しています。

「品質」に対しては、「サンアロマーの事業におけるの本質である」と位置づけ、品質も第一とする経営を行っております。その実現のために、社長を組織のトップとした品質マネジメントシステムを構築し、全社を対象組織とする ISO9001 の認証を取得しております。このシステムにおいて、品質は製造部門だけではなく、製品の開発、原材料の管理、販売、物流を含めた、すべての事業活動にわたるも

のであると定義しています。品質を通じたお客様の満足度を高めるために、測定データの自動取得システムを導入し、偽装・改ざんなどの品質不正を徹底的に排除する仕組みを構築するなど、品質に対する投資を積極的に進めています。

「環境」面への配慮として、不要な反応副産物や有害な廃棄物の発生が少ない、環境負荷の少ないポリプロピレン製造プロセスを採用しております。発生する産業廃棄物は、業界の中でも非常に少ない排出レベルを維持しています。また、製造・物流において発生する CO₂ の削減にも積極的に取り組み、地球温暖化の防止に努めております。近年、話題となっているプラスチックごみの問題につきましては、「プラスチック循環利用協会」の会員企業としてプラスチックごみの削減に向けての活動を実施しております。

また、「コンプライアンス」遵守を徹底した経営を進めています。経営理念を具体化する上で従業員が考え行動するための指針として制定した「私たちの行動規範」に基づき誠実に行動し、事業活動を通じて社会に貢献することに努めて参ります。これを真に「私たちの」といえる段階まで理解し行動するために、オリジナルの教育用資料を作成し、年 4 回の教育を全社員対象に行い、コンプライアンス意識の向上に努めています。また、コンプライアンス経営を実現するために、全従業員、協力会社の社員を対象に社内、及び社外の内部通報窓口を設置し、社内での不正を発見し対処する体制を構築しています。

CSR 本部長 兼 CCQO 中島 治継

*KPI: Key Performance Indicator の略で、企業目標の達成度を評価するための主要業績評価指標

方針体系

サンアロマーの方針体系は、パーパスを頂点に位置づけ、その下に企業の決意としてエクセレントカンパニーという目指す姿を置き、これらを基盤にバリューや各種方針を設定しています。

「私たちの行動規範」は、企業文化や価値観を日常の行動に落とし込むもので、従業員一人ひとりが「どのように振る舞うべきか」を具体的に示す指針です。このため、行動規範を単なる「上位概念」や「下位概念」と位置づけるのではなく、パーパス、バリュー、方針、行動指針が相互に補完し合う関係にあるものとして、方針体系全体を支える位置づけとしています。

サンアロマー方針・文書体系

(SunAllomer Policies and Management System)

Purpose(存在意義)「明日の暮らしをPPで支える」

Vision:10年後をイメージし、私たちがどのような企業集団になりたいのか

会社が目指すべき理想の姿:常に進化と信頼を追求し続ける8つの決意

社会に有益で、適正な収益に裏付けられた持続的な発展を追求し続けます」

Values:私たちが大切にしている価値観

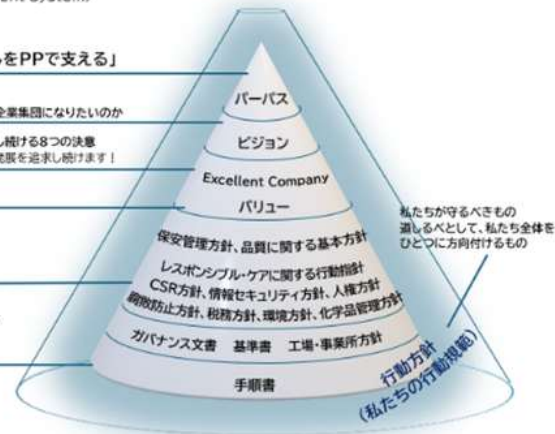
各種方針

持続的発展のために、「守るべき行動原則」

会社の経営管理:サンアロマー マネジメントシステム

ISO9001, ISO14001,

ISO45001, 安全管理システム



CSR 推進体制

サンアロマーでは、CSR 本部を設置し CSR 方針に従い CSR 活動を推進しています。CSR および内部統制に関するリスク管理やマネジメントシス

テムの統括を行い、レスポンシブル・ケア活動、コンプライアンスの推進および品質保証と製品安全管理を中心に活動しています。

CSR 方針

事業活動を通じた SDGs 課題解決への貢献と「私たちの行動規範」に基づく全社員の行動によりすべてのステークホルダーにご満足いただける社会貢献企業を目指します

【重要テーマ】

『安全とコンプライアンスを基盤としたリスクマネジメントの深化と CSR コミュニケーション をもとにした機会の創出による 経済的価値・社会的価値の創造』

- 技術・製品・サービスの有効活用による、豊かさと持続性の調和する社会創造への貢献
- 持続可能な社会のため、また製造業の使命としての環境課題への取り組み
- 国際社会と当社の持続可能な成長に資する人づくり

EcoVadis 社のサステナビリティ評価で『SILVER』を獲得



サンアロマーは、EcoVadis 社(本社:フランス)のサステナビリティ(持続可能性)評価において、今年「SILVER」を獲得しました。EcoVadis 社の評価は、「環境」、「労働と人権」、「倫理」、「持続可能な資材調達」の4分野について、国際的なCSR規格に基づき包括的に評価されるものです。

EcoVadis 社のデータベース登録企業数は150,000社以上にのぼり、世界185カ国以上、250業種以上の企業が評価対象となる中で、弊社は90パーセンタイル、すなわち上位10%に入るという高い評価を受けました。これからもサンアロマーは、社会・お客様・社員から信頼される企業として、ポリプロピレンの可能性を広げ、未来に向けた価値創造を続けてまいります。

サンアロマーの評価履歴

2019年	SILVER
2020年~2024年	GOLD
2025年	SILVER

SDGs への取り組み

サンアロマーは、「人権の方針」、「環境方針」、「腐敗の防止方針」に関わる方針を定めており、「人権を尊重した経営」、「環境問題への取り組み」、「社会との共創による持続可能な社会への貢献」、「製品・サービスに関わる安全と安心の確保」、「公正で誠実な取引活動」、「公平で公正な雇用・労働」を「私たちの行動規範」で定めています。

その内容は、2030年までに、全ての人に普遍的に適用されるSDGsの、あらゆる形態の貧困に終止符を打ち、不平等と闘い、気候変動に対処しながら、「誰も置き去りにしない」ことを確保するという考え方にも一致しています。

サンアロマーはこの活動に準拠し、行動規範とSDGsそしてマテリアリティを関連付けることで、サンアロマーの事業を推進します。

以下にSDGsに貢献するサンアロマーのポリプロピレン製品、ポリプロピレンコンパウンド製品、その使用例をご紹介します。



SDGs	貢献分野	私たちの生活とのつながり
	家庭用品	紙おむつ、レトルト食品包装、電子レンジ対応容器などの材料に使用され、家事労働の軽減に貢献しています。
	省エネルギー	自動車用内外装材に使われています。軽量化により、燃費向上に貢献しています。
	自動車等軽量化	自動車用内外装材に使われています。軽量化でCO ₂ 発生量を削減しています。

SDGs とは？

SDGs は、Sustainable Development Goals「持続可能な開発目標」の略称で、2015年9月の国連サミットで採択された「持続可能な開発のための2030アジェンダ」文書の中核を成す「持続可能な開発目標」を指します。主な内容は17のゴールとその169のターゲットから構成され、2030年までに持続可能でよりよい世界を目指す国際目標です。

社会との対話

一般社団法人日本化学工業協会レスポンシブル・ケア委員会の加盟企業は、化学企業の環境保全などの取り組みを地域の皆様によく理解していただき、交流を深めるために、「レスポンシブル・ケア地

大分工場

大分工場では、隔年で開催される大分地区「レスポンシブル・ケア地域対話」に参加しています。2025 年は、11月に開催され、地域住民、官庁関

域対話」を地区ごとに開催しています。レスポンシブル・ケア委員会の加盟企業であるクラサスケミカルの関連企業であるサンアロマーは、大分地区並びに川崎地区で地域対話に参加しています。

係の方々と企業関係者を含む約 150 名が参加しました。また、大分工場ではコンビニート周辺の清掃活動を実施しています。



【2025 年 11 月 大分地区「レスポンシブル・ケア地域対話」の様子】



【2025 年 10 月 大分工場周辺道路清掃活動の様子】



川崎工場

川崎工場も隔年で開催される川崎地区「レスポンシブル・ケア地域対話」へ参加しており、2026 年は、ステーションコンファレンス川崎にて地域の皆様約 65 名、行政・企業・団体関係者約 55 名が参加し、1 月に開催されました。

川崎コンビニート地区の 7 社および川崎市が、

地域住民の皆様に対して、自社の環境保全・保安防災・労働安全などの取り組みを公開し、相互理解を深めることで地域社会からの信頼を築くことを目的として開催しております。地域住民の皆様からの川崎地区企業へのご質問やご要望に対しましては、次回 2028 年の地域対話へ反映していきます。



【2026 年 1 月 川崎地区「レスポンシブル・ケア地域対話」の様子】



川崎工場は、2016 年 8 月より、環境保安技術の向上を目的に地域企業の有志会社で組織した研

究会である「川崎コンビニート環境保安技術研究会」に参加し活動しております。

研究開発本部

研究開発本部では地域の清掃活動を行っています。2025 年も近隣歩道の清掃活動を実施してい

ます。



【2025 年 11 月 研究開発本部での近隣歩道の清掃活動の様子】

CSR レポートの発行

2017 年からレスポンシブル・ケアレポートに代わり、すべてのステークホルダーの皆様に向けた

「CSR レポート」を発行しています。

社員および家族

社内クラブ活動

サンアロマーでは、スポーツや文化活動などを通じて、社内の親睦を図り、コミュニケーション促進のため社内クラブ活動を補助しています。2025 年、サンアロマーFC(フットボールクラブ)は月 1 回程

度のペースで練習会を実施し、大会にも参加しています。また、ゴルフ部も月 1 回程度で活動を行っています。



【サンアロマーFC の活動の様子】



【ゴルフ部の活動の様子】

レスポンシブル・ケア



サンアロマーは、一般社団法人日本化学工業協会のレスポンシブル・ケア委員会に登録しており、レスポンシブル・ケア活動を柱とする環境・安全活動を行っています。

具体的には、クラサスケミカルグループと一体と

なってレスポンシブル・ケア活動に取り組んでおり、活動の実行に当たっては、サンアロマーの「レスポンシブル・ケアに関する行動指針」に従い、年度目標を立てて活動し、活動実績に対し評価、改善を実施しています。

レスポンシブル・ケア(RC)とは？

世界の化学業界では化学物質を製造し、または取り扱う事業者が、化学物質の開発から製造、物流、使用、最終消費を経て廃棄に至るすべての過程において、自主的に「環境・安全・健康」を確保して活動の成果を公表し、社会との対話、コミュニケーションを行う活動をしており、この活動を「レスポンシブル・ケア」と呼んでいます。

サンアロマーの「レスポンシブル・ケアに関する行動指針」をご紹介します。

レスポンシブル・ケアに関する行動指針

1. 製品の全ライフサイクルにおいて、安全及び健康を確保し環境保全の観点から、事業活動を継続的に見直すとともに改善に努める。
2. 生産活動において、従来型の環境保全はもとより、原料転換、省エネルギー、廃棄物の削減・再資源化、化学物質の排出量削減等を推進し、地球環境との調和による循環型社会の持続的発展に努める。
3. 新製品開発、新規事業、設備の新設・増設・改造において、安全と健康の確保及び環境保全に配慮する。
4. 安全と健康の確保及び環境保全や環境負荷低減に寄与する研究開発、技術開発を推進し、代替製品・新製品の事業化の推進を図る。
5. 製品や取扱い物質の安全・健康・環境面の影響に関するリスク評価及びリスク最小化を図るとともに、安全な使用と取扱いに関する情報を、ステークホルダーに提供する。
6. 海外事業、技術移転、製品の国際取引において、安全と健康の確保及び環境保全に配慮する。
7. 国際規則及び国内関係法令等を遵守するとともに、国際関係機関、国内外の行政機関等への協力に努める。
8. 安全と健康の確保及び環境保全に関する諸活動に積極的に参加するとともに、社会との対話を深め、理解と信頼の向上に努める。

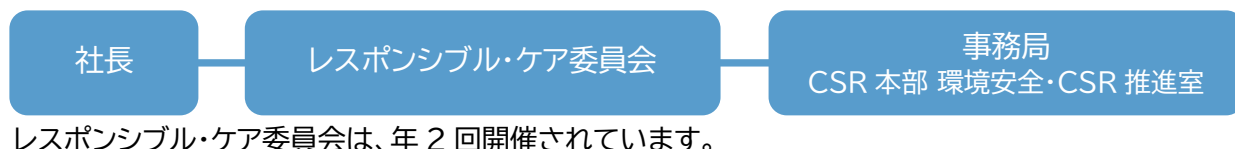
マネジメントシステム

サンアロマーは、社長を組織のトップとした統合的なマネジメントシステムを構築し、品質、安全、環境、コンプライアンスを包括的に管理しています。これらは、レスポンシブル・ケア推進活動として取り組

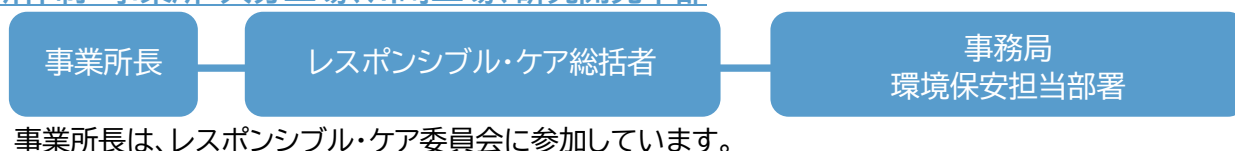
んでおり、環境、安全、保安に関する規程類の整備、組織の構築、会議体の設置、監査活動を実施しています。

レスポンシブル・ケア推進体制

本社体制



事業所体制 事業所:大分工場、川崎工場、研究開発本部



統合内部監査

サンアロマーでは、定期的に、統合内部監査としてレスポンシブル・ケアに関する事項も含め内部監査を本社、各事業所に対して実施しています。

監査は、マネジメントに関する書類監査、従業員

に対するヒアリングを中心に実施されています。

レスポンシブル・ケア委員会では、その結果が報告され、指摘事項・対策内容の確認やそれらの対応状況をチェックしています。

品質・環境・労働安全衛生マネジメントシステム

品質マネジメントシステム(ISO9001)の認証は、大分工場、川崎工場、本社・支店・研究開発本部も含め全社で取得しています。また、環境マネジメントシステム(ISO14001)、および労働安全衛生マネジメントシステム(ISO45001)の認証は、大

分工場、川崎工場それぞれ取得しております。

これらのシステムに基づき、内部監査を定期的の実施し、計画(Plan)、実行(Do)、評価(Check)、改善(Act)の PDCA サイクルの実施状況、システムの有効性も確認しています。



環境への取り組み



製造・販売するポリプロピレンは、私たちの生活に密着した製品に原料として多く用いられ、豊かで快適な生活に貢献しています。

しかし、その製造過程で周囲の環境に悪影響を与えたり、あるいは役目を終えた最終製品が廃棄物として放置されたりして環境問題を起こしては、地球・人々の環境にとってポリプロピレンの有益性は意味のないものになってしまいます。

サンアロマーではこのようなことがないように、環境の保護と、市民および従業員の安全および健康の確保を前提として事業活動を進める事が、社会的責務であり使命であるとの基本理念に基づき、下記の項目に重点を置いて取り組みを実施しています。

環境方針

サンアロマーの「環境方針」をご紹介します。サンアロマーは、2025 年のクラスケミカルグループ発足を機に、新たな環境方針を設定いたしました。

今後、この方針のもと、環境への取組みを推進していきます。

環境方針

サンアロマーは、「明日の暮らしを PP で支える」というパーパスのもと、環境との調和を基盤とする事業活動を展開し、以下の方針をもって、自然資本を未来につなげ持続可能な社会の実現を目指していきます。

1. 環境に関する法規制を遵守し、環境マネジメントシステムの継続的な改善に努めます。

環境法規制を遵守し、内部監査や環境マネジメントシステムの継続的改善を通じて、事業活動全体における環境保全を推進します。

2. 環境負荷の低減に取り組み、環境汚染や環境事故を防止します。

エネルギーや水資源の効率的利用、化学物質管理、廃棄物削減、汚染防止に取り組み、環境事故の未然防止と適切な対応体制を整備します。

3. 気候変動対策に真摯に取り組みます。

温室効果ガスの排出削減目標を設定し、計画的な取り組みを通じて気候変動の緩和に貢献します。

4. 循環型社会の実現に向けた取り組みや自然との共生に努めます。

製品のライフサイクル全体でのリサイクル活動や資源の有効活用を進め、生物多様性や自然資本の保全に努めます。

5. 社会との連携や従業員の環境意識の向上に努め、お客様と共に持続可能な社会の実現を目指します。

地域社会やお客様との連携を深めるとともに、全社員への環境教育を通じて高い環境意識と行動力を育成し、環境に配慮した製品開発を推進します。

環境月間

国連では、6 月 5 日を「世界環境デー」と定めており、日本では「環境基本法」(平成5年)で「環境の日」を定めています。サンアロマーにおいても環境について関心と理解を深めるために 6 月を環境月

間と定めて社長メッセージを配信し、また環境に関する各種施策の進捗確認を実施する等、環境を守ることの大事さを再認識する機会としています。

環境月間 社長メッセージ(2025 年 6 月)

皆さん、ご安全に。

6 月は環境月間です。

毎年「環境」について自らの行動を振り返り、私たちが出来ること考える時です。

この環境月間に際し、世界中で様々な取り組みがされています。

日本では環境省が「心地よい暮らしのために今できる選択を」と呼び掛けを行っています。

私たちの住む地球環境が毎年変化し、各地で異常現象が頻発しています。

私たちが将来も「心地よい暮らし」を続けるために今出来ることは何でしょうか？

サンアロマーは、石油化学事業を手掛けるクラサスケミカルグループの一員であり、プラスチックのプロ集団です。

プラスチックは、社会に欠かせない製品、生活に便利な製品を提供し、多様な産業の発展と人々の豊かな生活を支えています。

一方で石油化学産業は環境への負荷が大きいことも事実です。

我々は社会からの期待と社会への責任を背負い、炭素循環型のグリーンケミカル産業へと変革していく必要があります。

サンアロマーは、非石油由来(バイオマス)品や薄肉・減容効果のある High BIPO や高剛性といったユニークな環境対応グレード群の上市を近年行っています。

今後もお客様との「協創」を通じて環境・社会に貢献していきます。

自信と誇りをもって『明日の暮らしを PP で支える』挑戦をしていきましょう。

サンアロマー株式会社 代表取締役社長 高岡 博(当時)

エネルギー削減

省エネルギー対策を通し、資源の有効利用、地球温暖化防止に努めています。「(環境保全)」の項の「CO₂ 排出量データ」、「工場における省エネルギー

の取り組み」、「物流における省エネルギーの取り組み」に詳細記載)

土壌汚染防止

大分・川崎両工場、研究開発本部は、市が指定する土壌汚染対策法に基づく指定地域に立地していますが、該当する特定有害物質は使用しておりません。施設撤去や土壌改良時には、土壌汚染対策法および自治体の条例に則った、届け出、調査や措置を

実施しております。あわせて施設の床面、付帯配管、防液堤、排水溝管理によって、漏洩による土壌汚染の未然防止に努めております。

尚、2025 年度は土壌に関する異常は発生していません。

VOC 削減

川崎工場では製造段階での VOC(揮発性有機化合物)の大気への放出を抑制する為、2020 年 10

月に VOC 回収設備を設置しました。大分工場については対策済みです。「(VOC の排出)」に詳細記載)

ゼロ・エミッション

ポリプロピレン製造の過程や研究活動にともない発生する廃棄物については、分別を徹底し、再利用・再資源化に努め、ゼロ・エミッションの達成を目標としてその管理を行っています。

また、一般社団法人プラスチック循環利用協会に加盟し、その活動に参画しています。プラスチック循環利用協会は、廃プラスチックの循環的な利用に関する調査研究等を行い、プラスチックのライフサイクル全体での環境負荷の低減に資するとともにプ

（「環境保全」の項の「産業廃棄物のゼロ・エミッション」に詳細記載）

ラスチック関連産業の健全な発展を図り、もって持続的発展が可能な社会の構築に寄与することを目的に活動しています。私たちはポリプロピレンの最終製品の廃棄・再利用に関しても、責任の一端を担っています。

ゼロ・エミッションとは？

サンアロマーは、廃棄物の最終埋立処分量が発生量の 0.5% 以下の達成を目標としてその管理を行っています。

再生紙の利用促進

リサイクル推進の観点から、全社で再生紙の利用促進に取り組んでいます。

川崎工場はグリーン購入法施行と同時にコピー

紙を再生紙（古紙配合率 100%）に切り替えました。研究開発本部と大分工場は 2019 年半ば、本社は 2020 年 2 月から再生紙を利用しています。

水資源の利用

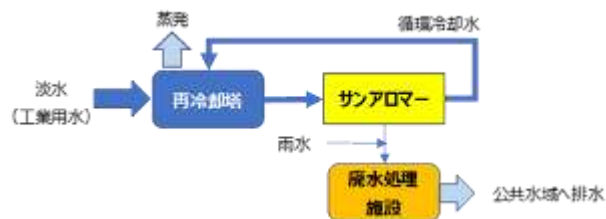
サンアロマーの 2025 年度の水使用量は合計 491.1 千トンで、内訳は工業用水 479.7 千トン、上水道水 11.4 千トン、地下水 0.0 千トンでした。これと同等量の排水を行っています。また、循環冷却水を 43,499 千トン使用しました。製造プロセスには循環式冷却水系を導入しており、水をリサイクルすることで水使用量を大幅に削減しています。

排水については、大分・川崎両工場および研究開発本部は親会社のコンビナートに属しており、親会社の事業所とともに、国や県などの排水基準を遵守するための社内基準を設定し、水質管理を実施しています。具体例として、大分工場はコンビナート内の各社とともに水質環境負荷の低減に努めており、排水量、pH、TOC、温度を管理しています。また、川崎工場でも排水量、COD、全窒素、全リン、浮

遊物質等の管理を行っています。

両工場とも、排水施設の適切な運転管理を実施することで排水基準を遵守し、さらに水の循環利用を最大限活用することで、排水量の削減に取り組んでいます。下図に現状の取り組みを示します。

なお、2025 年度の排水に関する異常は発生していません。



【両工場 水の循環利用の取り組みの図】

TOC とは？

TOC は、Total Organic Carbon「全有機体炭素」の略称で、水中の有機物の総量を有機炭素の量で示したものであり、有機物による水の汚濁を判定する代表的な指標の一つ。

COD とは？

COD は、Chemical Oxygen Demand「化学的酸素要求量」の略称で、排水中の有機物による汚れを示す指標。水中の有機物を酸化するために必要な酸素量を示したものの。

環境保全



CO₂ 排出量データ

サンアロマーは、省エネ法(エネルギーの使用の合理化及び非化石エネルギーへの転換等に関する法律)の特定事業者として、また温対法(地球温暖化対策の推進に関する法律)の特定排出者として、これらの法に基づき、エネルギー使用量、省エネルギー計画の策定、および温室効果ガス排出量を算定し、国へ報告しております。また、2050年カーボンニュートラルの実現を目標に、CO₂ 排出量削減活動を推進しています。

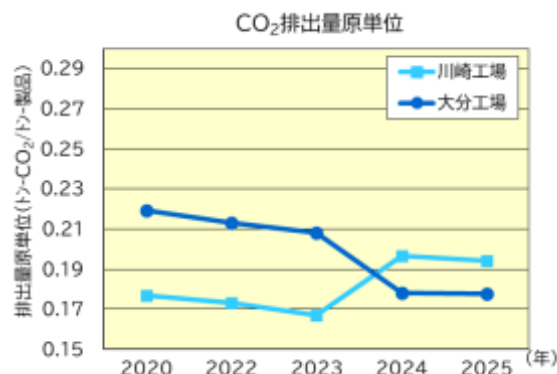
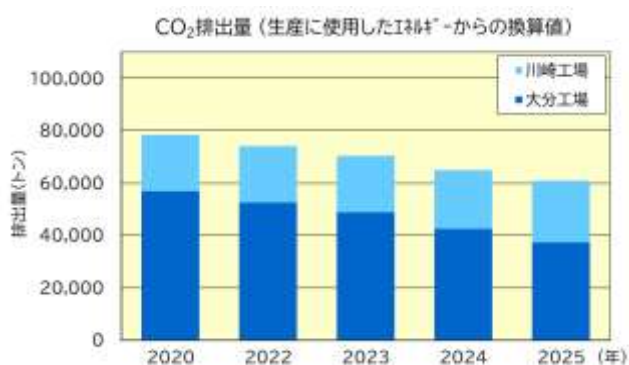
2025年度は、大分工場では生産量低下の影響

によりCO₂ 排出量が前年比で減少し、排出量原単位は前年とほぼ同等でした。川崎工場では生産量増加に伴いCO₂ 排出量は増加し、排出量原単位は改善しています。

今後も省エネルギー活動や設備改善を通じて、温室効果ガス排出量の削減に取り組んでまいります。

CO₂ 排出量原単位とは？

サンアロマーでは製品のポリプロピレンを1トン生産するときの二酸化炭素の排出量(トン)としている。



工場における省エネルギーの取り組み

CO₂ などの温室効果ガスの排出量を抑制し、環境保全と資源の有効利用を推進するためには、工場におけるエネルギー使用量の削減が重要です。サンアロマーでは、大分工場および川崎工場が「第一種エネルギー管理指定工場」となっており、従来より省エネルギー活動を推進しています。

右図はエネルギー原単位の推移を示します。2023年からは改正省エネ法によるエネルギー原単位の算出方法変更に伴い、エネルギー原単位の値が低くなっています(図中の「新基準」と表示している値が改正後の値です)。大分工場と川崎工場では、エネルギー原単位が前年比1%以上改善しています。大分工場ではエネルギー換算係数低下の効果が寄与し、川崎工場では計画停止時間および非計画停止時間の減少が改善要因となりました。

今後も設備改善や運転最適化を通じて、省エネルギーの推進に取り組みます。



エネルギー原単位とは？

サンアロマーでは製品のポリプロピレンを一定量生産する際に消費するエネルギーの量としている。

資源の有効活用と環境負荷低減の取り組み

サンアロマーでは、製品の製造工程において、資源の有効活用と環境負荷の低減を目的とした製造プロセスを採用しております。製造プロセスでは、反応器に原料を投入し、重合反応を行うことで中間製品を生成しています。この過程で排出される未反応原料については、廃棄せずに回収し、再度原料として反応器へ投入することで再利用しています。こ

れにより、製品収率の向上を図るとともに、原料使用量の最適化を実現しています。未反応原料の再利用は、化学物質の廃棄量を削減することにもつながっており、環境への負荷軽減に貢献しています。これらの取り組みは、資源循環型の製造体制の構築に寄与するものであり、持続可能な生産活動の一環として位置づけられています。

物流における省エネルギーの取り組み

サンアロマーは特定荷主としてエネルギー使用に係る原単位を年平均1%削減することを目標に物流分野での省エネルギー活動を推進しています。

2025年度は、トラックにおける車番把握割合の向上による算出精度向上やモーダルシフトの進展により、物流におけるエネルギー原単位が改善しました。今後も配送効率向上や輸送距離短縮などの

取り組みを推進し、物流分野における環境負荷低減に努めます。

特定荷主とは？

省エネ法で規定された輸送量の多い荷主のこと。

年に一回物流部門の省エネ対策とその期待効果についての計画を国に提出するとともに、エネルギー使用量、エネルギー使用原単位、省エネ取り組み状況、CO₂排出量を報告することが義務づけられています。

項目/年度	2021年	2022年	2023年	2024年	2025年
エネルギーの使用に係る原単位 ※(kl/トン)	0.0150	0.0156	0.0151	0.0144	0.0141
前年度比(%)	98.7	104.0	96.8	95.2	98.2

※ 輸送のためのエネルギー使用量(原油換算)(kl)/販売量(トン)

クロス配送低減による環境負荷軽減

滋賀県を境界線に日本を東西の配送エリアに分けたとき、この境界線をまたぐ配送をクロス配送と定義し、クロス配送を低減するよう努力をしています。

2015年以降は、大分工場のみで生産していた製品を川崎工場でも生産する技術開発を行い、共通生産品の種類を増やしたことで、同一品質の製

品をよりお客様に近い工場から出荷・配送することができるようになりました。これにより工場からの製品配送距離が短縮され、結果的にトラック配送における環境負荷を低減することができました。

今後も小口配送の削減を更に進めること、および両工場での共通生産品を増やすことで、トラック配送における環境負荷低減を進めていきます。

九州地区の自動車産業のお客様へ大分工場(九州)から出荷

大分工場はその立地を生かし、九州地区の自動車産業のお客様のもとへ輸送効率を意識した配送

計画を立案・実行することにより、トラック配送における環境負荷を低減しています。

モーダルシフトによる輸送

国内の輸送手段をトラック輸送から、鉄道または海運に転換し、その割合を拡大することに取り組んでいます。環境負荷の低減に加え、エネルギー問題および今後の少子高齢化に伴う労働力問題の解決に資することを目的とし、2016年に現行の RORO 船に加え、内航船コンテナ輸送の起用と JR 鉄道の活用拡大を検討しました。2017年には今まで実施していないエリアで JR 鉄道による顧客への納入を開始しましたが、経済状況などの様々な新たな課題により拡大が難しくなっている状況です。

今後も機会を逃さず継続して取り組み、環境負荷低減に配慮した RORO 船での輸送を主体に、CO₂ 排出量の削減に努めてまいります。



RORO 船とは？

ロールオン、ロールオフの略称で、トラックやトレーラーの貨物をそのまま運べる貨物専用の船のことで、一度に多く運べ、効率が良く、エネルギーが少なく済むなどの利点があります。

包装材料の見直しによる環境負荷低減

サンアロマーでは、製品を充填する包装材料について、これまでも薄肉化を進め、資源使用量の削減を通じた環境負荷の低減に取り組んできており、2017年当時より約12%の薄肉化を達成しております。包装材は製品の品質を守るために重要な役割を担っていますが、その役割を維持しながら、できるだけ環境に配慮した形へ見直しを進めています。

現在は、樹脂袋25kg用包装材について、従来より約7%の薄肉化を検討しています。実現した場合には、包装材の使用量を更に削減できる見込みです。今後も、品質や安全性をしっかりと確認しながら、包装材の使用量削減や環境に配慮した材料の活用を進め、持続可能な社会の実現に貢献していきます。

ランニング包材回収率の向上

製品運搬用の輸送容器(パレット、フレキシブルコンテナバッグ)の回収強化・再利用促進を目的に2013年から包材管理システム(RFIDシステム)を導入し、ランニング包材の出荷から回収までの一貫した管理を開始したことにより回収率を大幅に向上させ、現在も高い回収率を維持しています。

RFIDシステム導入前は紛失・未回収により不足したパレットを追加購入していましたが、回収率が向上したことによりパレットの再利用が促されました。なお、回収後に損傷などにより再利用ができ

ないと判断されたパレットについては粉砕し再加工、再利用しています。

フレキシブルコンテナバッグについても回収後に洗浄し、再利用に努めています。

今後も引き続き、資源の循環利用による環境負荷の低減を推進して参ります。

RFID とは？

Radio Frequency IDentification の略です。サンアロマーでは、無線通信により情報の読み書きを行う非接触型のタグ(RFID タグ)をパレット、フレキシブルコンテナに装着し、個体識別管理を行っています。

VOC の排出

VOC(揮発性有機化合物)は大気汚染の原因となる物質であり、人の健康や環境への影響が懸念されています。サンアロマーにおける VOC 排出の大部分は、川崎工場の設備で製造時に発生するノルマルヘキサンです。2023年度以降は、VOC 回収設備の運転および設備管理の強化を継続し、VOC 排出量の削減に取り組んでいます。その排出量は右図のとおりです。引き続き運転および設備

管理を強化し、排出量の削減に取り組めます。



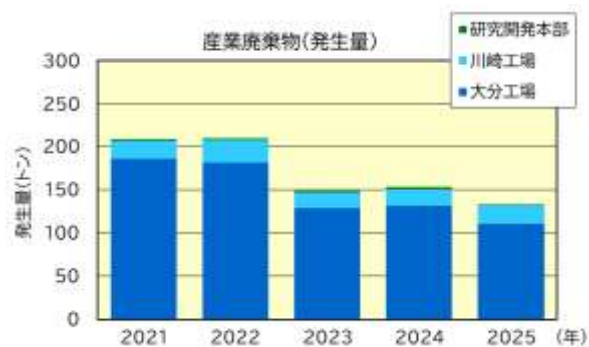
産業廃棄物の発生量

産業廃棄物発生量の推移を管理しながら、発生抑制と有効利用を推進しています。

産業廃棄物の発生量の推移を右図に示します。発生量は年ごとに増減がありますが、大分・川崎両工場、研究開発本部ともに、分別収集により、産業廃棄物自体の発生抑制に努めています。大分工場では、廃プラスチックの有効利用を継続し、産業廃棄物の発生量を維持管理しています。

今後も有効利用を推進し、産業廃棄物発生量の

削減に取り組んでまいります。



産業廃棄物のゼロ・エミッション

サンアロマーでは、産業廃棄物の分別収集および再資源化を徹底し、最終埋立処分量の削減に取り組んでいます。

産業廃棄物の最終埋立処分量は、分別収集および再利用の徹底により、集計を開始した2020年以降、6年連続でゼロ・エミッションを達成しています。

今後も資源循環の推進と埋立量の削減に取り組んでまいります。

産業廃棄物最終埋立処分率



SOx、NOx、ばいじん

サンアロマーではSOx(硫黄酸化物)、NOx(窒

素酸化物)、ばいじんの排出はありません。

水銀使用の排除と適正処理

サンアロマーでは、環境負荷の低減と安全な職場環境の確保を目的として、工場における水銀の使用を段階的に排除する取り組みを進めております。これにより、新規設備や照明器具には水銀を含まない製品を採用し、持続可能な生産体制の構築を図っています。

また、過去に使用されていた水銀含有蛍光灯な

どの廃棄物については、廃棄物処理法に基づき「特別管理産業廃棄物」として厳格に管理し、認可を受けた専門業者による適正な収集・運搬・処理を実施しています。これらの処理は、環境への影響を最小限に抑えるとともに、法令遵守の姿勢を明確に示すものです。

PCB 管理

現在製造は中止となっているPCB(ポリ塩化ビフェニル)は、従来の変圧器、コンデンサーや安定器などに使用されていました。サンアロマーでは、こ

れらを適正に処理しており、2025年にも再点検を実施し、PCBが含まれている機器がないことを確認しました。

生物多様性保全への取り組み

サンアロマーの生物多様性の保全に関する活動は、クラサケミカルグループの「私たちの行動規範」の中に示されている「生物多様性保全への取り組み」に基づき、行われています。具体的には、排

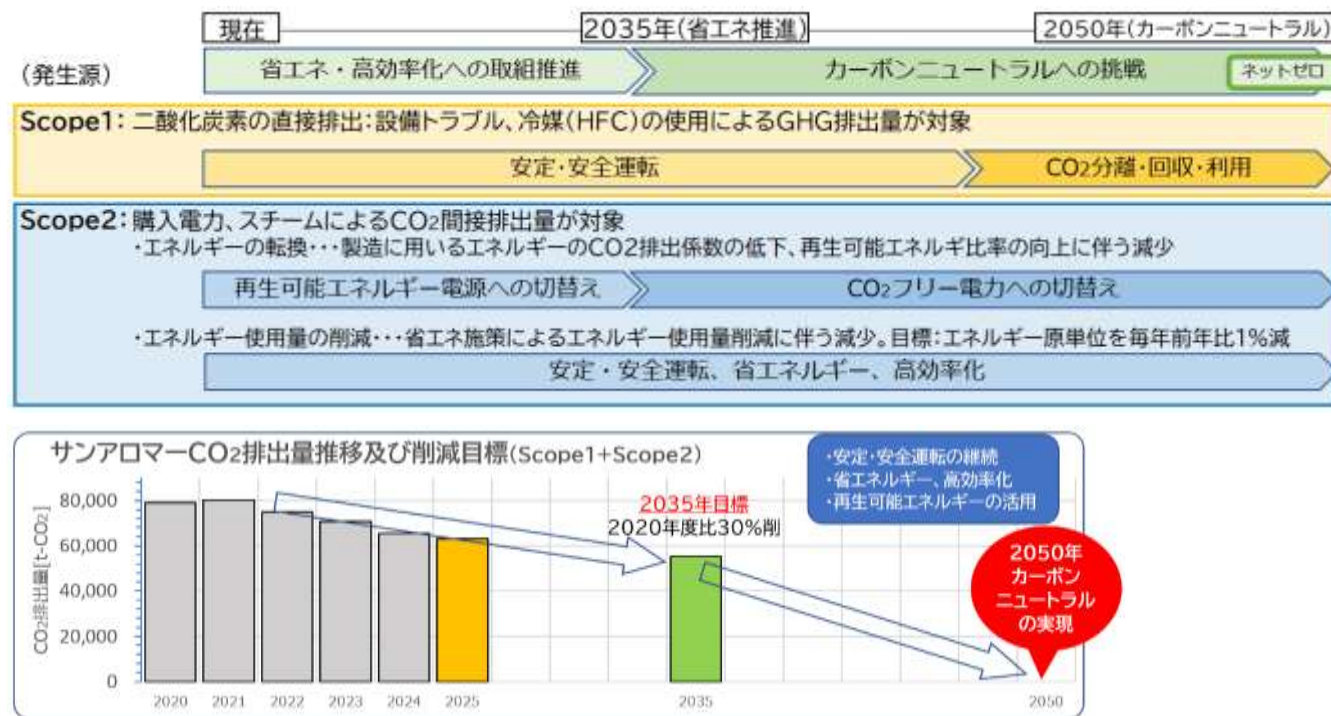
水・廃棄物・化学物質・緑化管理、地域での清掃活動への参加や省エネ・温室効果ガス削減(CO₂削減)活動を行っています。

カーボンニュートラルに向けた対応

サンアロマーは、以下に示す CO₂ 排出削減ロードマップに基づき CO₂ 排出削減を目指していきます。Scope1, Scope2 について、立地するコンビナートと協働し 2050 年までにカーボンニュートラ

ルを目指します。Scope3 についてもサプライチェーンからの CO₂ 排出量の把握、及び削減の検討を行っていきます。

サンアロマー CO₂排出量推移、及び削減ロードマップ



Scope3 削減への取り組み

サプライチェーンからの CO₂ 排出量削減にも取り組んでいきます。Scope3 に対しては、自社にて削減施策に取り組めるカテゴリー5(廃棄物)、カテゴリー9(下流物流)の削減を中心に取り組みを進め

ます。また、製品毎に CO₂ 排出量(CFP:カーボンフットプリント)が算出できる仕組みを構築しています。

ISCC PLUS 認証の取得

サンアロマーは、環境配慮型製品の取扱いを強化するために、2023 年7月に、大分工場、川崎工場ともに、持続可能な製品の国際的認証制度の一つである ISCC PLUS (Processing Unit) 認証を取得しました。

これまで、両工場では石油由来原料のみを使用しておりましたが、原料の一部をバイオマス原料に置き換えることが可能となり、この取り組みは、持続可能な原料の社会での実用化、カーボンニュートラルに向けた循環型社会形成につながるものです。

ISCC PLUS 認証取得により、バイオマス原料を一部使用する製品に対して、認証制度に基づくマスバランス(物質収支)方式によって、バイオマス原料由来の持続可能特性を割り当て、販売することが可能となりました。

ISCC PLUS 認証は、サンアロマーだけでなく、バリューチェーン全体におけるお客様の持続可能性の目標達成にも役立つと確信しており、継続的な取り組みを進めてまいります。

LCI データ更新活動

サンアロマーは、一般社団法人プラスチック循環利用協会の会員となっています。

本協会の目的は、「廃プラスチックの循環的な利用に関する調査研究等を行い、プラスチックのライフサイクル全体での環境負荷の低減に資するとともにプラスチック関連産業の健全な発展を図り、もって持続的発展が可能な社会の構築に寄与する」としています。

サンアロマーはこの目的に賛同し、プラスチック

循環利用協会の会員として、近年社会的なニーズが高まっている LCI(Life Cycle Inventory)データの 20 年振りとなる更新活動に参加しました。

LCI データは製品のライフサイクル(製造、使用、廃棄)の各工程で消費された資源、エネルギー量、各種環境負荷項目の排出量を定量的に評価したものであり、LCA(Life Cycle Assessment)を実施するための基礎データとなります。

化学物質の漏洩検知と拡散防止

危険物の漏洩拡散防止

サンアロマーは、危険物の貯蔵、または取扱施設においては、消防法の技術上の基準に従い、排出源の囲い込みや装置の密封性を確実なものとするための措置を講じ、危険物の系外への漏洩防止に努めています。

化学物質漏洩の早期検知

工場では、危険物や高圧ガスなどの化学物質を取り扱っており、これらの物質が漏洩した場合には、作業者の安全や周辺環境に重大な影響を及ぼす可能性があります。そのため、万が一の事態にも迅速かつ的確に対応できるよう、法令で定められたガス検知器に加え、サンアロマー独自の基準に基づく自主設置の検知器も導入し、漏洩の早期発見体制を強化しています。これらの検知器は、危険物や高圧ガスを取り扱うエリアに重点的に配置されてお



【川崎工場 防液堤】

り、常時監視を行っています。また、ガス検知器は定期的に点検・校正を実施し、常に正常に作動する状態を維持しています。これにより、検知精度の確保と信頼性の向上を図っています。

検知器による異常検知時には、速やかに関係部署へ通報され、事前に定めた緊急対応手順に従って対応が開始されます。これにより、被害の拡大を防止し、作業者の安全を確保します。

空気輸送設備における粉じん排出抑制への取り組み

サンアロマーの生産設備において、空気輸送設備は、製品であるペレット状のポリプロピレンを各工程へ送給するための設備です。本設備では、大気中の空気を取り込み、搬送用空気として使用した後、再び大気中へ排出しています。このため、排出空気による周辺環境への影響を抑えることが重要となります。

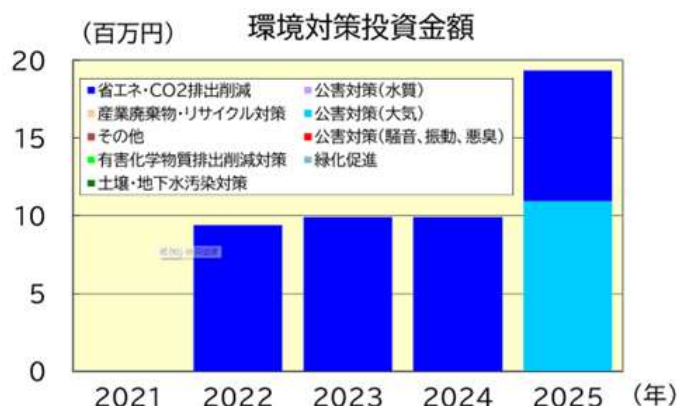
サンアロマーでは、空気輸送設備の大気放出口に

バグフィルターを設置し、輸送工程で発生し得る粉じん等を適切に捕集することで、排気中への混入を抑制しています。これにより、粉じん等による環境汚染の防止を図るとともに、周辺環境への負荷低減に努めています。今後も、設備の適切な維持管理を通じて、安定した環境保全に取り組んでまいります。

環境対策投資金額

環境保全活動を推進するため、継続的に環境対策投資を実施しています。大分工場および川崎工場における環境改善のための投資金額の推移は、右図のとおりです。

2025 年は、大分工場における環境対策投資はありませんでした。一方、川崎工場では、ベントラインのフレアスタック接続工事を実施したほか、照明設備の LED 化を推進しました。これらの環境対策投資により、大気排出物の削減や省エネルギー効果の向上を図っています。今後も、環境負荷低減に資する設備投資を継続的に推進していきます。



環境監視

大分工場

サンアロマーの大分工場はクラサスケミカル株式会社大分石油コンビナート内に所在しており、各種設備を構成各社にて共同利用しています。本コンビナートは、サンアロマーを含めた構成各社により、排水・大気・臭気・騒音に関して、24 時間常時監視が行われています。環境測定は定期的に実施して

NOx とは？

有害大気汚染の指標。燃料や廃棄物燃焼時に空気中などの窒素が酸化して発生する。光化学スモッグの原因になるともいわれている。

おりますが、異常値が検知された場合は、直ちに周辺パトロールや、各プラントからの報告で状況を確認し、必要な措置を行います。また、共同設備から大気中に排出される NOx、SOx などのばい煙をリアルタイムで測定し、これらのデータは大分市のテレメーターシステムに自動送信されています。

SOx とは？

有害大気汚染の指標。硫黄を含む燃料を燃焼する場合に発生する。呼吸器系に影響がある。

川崎工場

サンアロマーの川崎工場は ENEOS 株式会社川崎製油所川崎地区(千鳥)内のコンビナートに所在しており、各種設備を構成各社にて共同利用しています。本コンビナートは、サンアロマーを含めた構成各社により、排水・大気に関して 24 時間常時監視をしており、臭気・騒音については、日々のパトロー

ルの他に年に一度定期測定を実施しております。もし異常が検知された場合は、直ちに状況を確認し、必要な措置を行います。また、共同設備から大気中に排出される NOx、SOx などのばい煙をリアルタイムで測定しています。

安全についての基本理念を次のように定め、これに基づき保安確保のための諸施策を展開しています。

安全の基本理念

企業活動における安全の確保は、経営の基盤をなすものであるとともに、企業に課せられた必須かつ重大な社会的責務である。したがって、生産活動およびその他全ての活動においては、安全確保を最優先のものととして、関係する諸法規を遵守するとともに、事故・災害を未然に防止し、もって、従業員の生命ならびに生産施設を守り、地域・公共の安全を確保しなければならない。

保安管理方針

サンアロマーの「保安管理方針」をご紹介します。サンアロマーは、2025年にクラサスケミカルグループ発足を機に、新たに保安管理方針を設定いたしました。今後、この方針のもと、保安管理への取組みを推進していきます。また、この全社方針のもと、大分工場および川崎工場では工場の「保安管理方針」を設定しております。

保安管理方針

サンアロマーは

「明日の暮らしを PP で支える」ために、「安全」と「コンプライアンス」を全てに優先し、保安管理を徹底することで、事故を予防し、地域社会と従業員の安全と健康を守り、事故災害ゼロを達成します。

- 1.保安管理を徹底し、安全最優先とします。
- 2.法令遵守を徹底します。
- 3.保安管理の継続的改善を常に行います。
- 4.リスク管理、変更管理を徹底し、事故の予防を行います
- 5.保安管理教育を徹底します。
- 6.高度な新規技術の導入に積極的に取り組みます。
- 7.地域や社会との共生に努めます。

大分工場保安管理方針

- 1.完全無事故・無災害を目指し、安全を最優先とする。
- 2.保安に関する法規制等ならびに社内基準を遵守し、保安管理レベルの向上に努める。
- 3.保安管理の目標及び計画を設定し、定期的に見直し、保安管理システムの継続的改善を図る。
- 4.保安に影響を与えるリスクの低減、変更管理を推進し、事故の予防に努める。
- 5.保安活動を効果的に推進するため、教育・訓練を実施し、保安意識の高揚に努める。
- 6.保安管理レベルの向上につながる新規技術の導入に積極的に取り組む。
- 7.事業活動を通じて、関係官庁・地域住民とのコミュニケーションを図り、従業員・協力会社従業員と地域社会の安全を確保する。

川崎工場保安管理方針

『サンアロマーの保安管理方針』を踏まえ、川崎工場は、保安管理方針を定めて保安確保を徹底する。

1. 安全確保

無事故・無災害を目指し、安全を最優先とする

2. 関係法令、要求事項等の遵守

保安に関する関係法令、特定要求事項ならびに全社、工場で定めた規程類を遵守し保安管理レベルの向上に努める

3. リスク評価の推進ならびにリスクの低減

保安管理に影響するリスク評価およびリスク管理の充実を図り、リスク低減を積極的に進め、また、変更管理徹底により事故の未然防止、安全・安定操業に努める

4. RC 活動への積極的参加ならびにシステムの継続的改善

『川崎工場 RC 行動計画』を策定し、諸活動に積極的に参加すると共に、これを定期的に見直しを行い、システムの継続的改善を図る

5. 教育・訓練を通じた保安意識の向上

教育・訓練を通じ工場内の全ての就業者の保安意識の向上に努める

6. 新技術の導入

サイバーセキュリティ等の高度な新規技術の導入に積極的に取り組む

7. ステークホルダーとのコミュニケーションの充実

事業活動を通じて、関係諸官庁、地域住民とのコミュニケーションを図り、従業員・協力会社従業員と地域社会の安全を確保する

自主保安の推進

川崎工場は高圧ガス保安法に基づく認定保安検査実施者および認定完成検査実施者として、経済産業大臣の認定を継続して受けています。

大分工場は高圧ガス保安法に基づく認定高度保安実施者(B 認定)として、4 年の連続運転が可能認定を受けています。

両工場については、高圧ガス保安法に基づいた本社による監査を実施し、検査管理組織および工場が経済産業大臣の定める基準に沿って保安管理システムを確実に運用しているかを確認しています。

サンアロマーの安全文化

保安防災管理体制は、クラサスケミカル株式会社、ENEOS 株式会社の安全基準を融合した独自の安全マネジメントシステムを構築し、高い水準を維持しています。今後も安全活動には終わりが無い

と認識し、クラサスケミカル株式会社、ENEOS 株式会社とも連携し、継続して対策を進めてまいります。以下に、これまで実施した例を示します。

プラント爆発事故対策

万が一プラントで爆発事故が起きたときに備えて、爆風シミュレーションを行い、その結果に基づく

対策を行っています。

大分工場の計器室の耐爆風対策

耐爆風計器室コンクリートの壁は、「400mm」の厚みがあり、また、耐爆扉も銀行の金庫の扉に匹敵

する厚さとなっており、爆風に対して十分な強度があります。



川崎工場の計器室と事務所の耐爆風対策

従来のコンクリート建屋の周りに、耐爆風壁を設

置しています。



地震・津波対策

大分工場の設備は、 $0.6 \leq I_s$ (ほぼ倒壊リスクなし) を耐震基準としており、これを満たしていない設備は、計画的に補強工事を実施しています。具体的には、製品倉庫の耐震補強の工事を実施しており、2026 年完成予定です。4 月に完成しました。

また、津波対策として、重要電気設備の水没を防

止すべく、2022 年に防潮堤の設置を完工しています。



【電気設備の防潮堤】

安全・防災への投資

サンアロマーでは、設備および操業の安全性の維持・向上を図るため、安全・防災対策への投資を継続的に実施しています。

2025 年度は、右図のとおり、大分工場で設備安全対策および作業環境改善を目的とした投資を実施しました。また、川崎工場では、設備災害の防止および作業環境改善を中心とした設備投資を実施しました。

今後も、設備の信頼性向上や事故防止対策を継

続し、安全で安定した操業に努めてまいります。



防災・防火訓練

各事業所では、様々な異常事態を想定し各種訓

練を実施しています。

大分工場

2025年も、大分石油化学コンビナート全体及び大分工場で様々な想定による各種訓練が行われました。

- ・サンアロマー防災訓練:1月
- ・コンビナート総合防災訓練:4月、7月、11月
- ・コンビナート緊急通報訓練:5月、11月
- ・コンビナート地震・津波避難訓練:9月

(コンビナート総合災害訓練実施)

大分石油化学コンビナート全体では年3回の総合防災訓練が行われています。これはプラント災害発生時において、コンビナート非常対策組織が機能することを確認するためのものです。訓練での反省点や不具合事項等については対策を実施し、災害発生時に適切に対応できるように準備を進めています。



+

【サンアロマー防災訓練(2026年1月実施)の様子】

川崎工場

川崎工場でも、2025年も様々な異常事態を想

- ・総合防災訓練:12月
- ・放水訓練:5月、7月
- ・緊急通報訓練:7月、11月
- ・地震津波訓練:2月

定し、防災訓練を実施しました。

- ・緊急処置訓練:1回/年
- ・放水銃使用訓練:1回/年
- ・ブラインド訓練:1回・班/年



【放水訓練の様子】

【放水銃使用訓練の様子】

【総合防災訓練の様子】

研究開発本部

2025年12月に防災想定訓練として、実験設

備より微小漏洩を想定した訓練を実施しました。

本社

本社が入居しているビル全体での防災・防火訓練に年2回参加しています。2025年の訓練では、非常階段を使用した避難訓練に参加、実施しました。

- ・避難訓練:5月、11月



【消火訓練の様子】

高圧ガス保安法「認定高度保安実施者(B 認定)」の認定取得について

サンアロマーは、経産省の定める高圧ガス保安法の認定高度保安実施者制度において、2026 年3 月 11 日付で製造本部大分工場が認定高度保安実施者(通称:B 認定)として認定されました。本認定は、高圧ガスを取り扱う事業者のうち、設備の安全性確保や運転・保全に関する管理体制が高い水準

にあると国から認められた事業者に付与されるものです。当社は今後も、本認定にふさわしい保安管理体制の維持・向上に努めながら事業活動を継続し、社会へ貢献してまいります。



高圧ガス新認定制度におけるサイバーセキュリティ対策の取り組みについて

2023 年 12 月の高圧ガス保安法改正により、「認定高度保安実施者制度」(新認定制度)が創設され、サイバーセキュリティ対策が新たな認定要件として追加されました。

サンアロマーでは現在、大分工場は新認定制度による「認定高度保安実施者(B 認定)」の認定を取得済です。川崎工場は「高圧ガス認定保安実施者」の

認定を受けておりますが、今後新認定制度への移行を踏まえ、サイバーセキュリティの強化を課題と位置づけ、石油化学工業協会のガイドラインである「石油化学分野におけるサイバーセキュリティガイドライン」に準拠した、体制の構築を推進していきます。

主な取り組み内容(PDCA サイクルに基づく)

Plan(計画):

情報セキュリティ基本方針の策定と文書化
リスクアセスメントや教育の計画

Do(実行):

対象システムに対するリスクアセスメント
社員教育の実施

Check(評価):

定期的な内部監査の実施

Act(改善):

評価結果に基づく対策の見直しと継続的改善

サンアロマーの情報セキュリティ方針をご紹介します。(クラサスケミカルグループの方針を適用)

情報セキュリティ方針 (クラサスケミカルグループ)

クラサスケミカルグループは

- 社会の基盤を支える製品やサービスを提供する中で、情報セキュリティの確保が事業活動の持続可能性と信頼性を支える重要な要素であると認識し情報セキュリティに取り組めます。
- 国内外の関連法令や規制、社内規程類を遵守し、高い倫理観をもって情報セキュリティに取り組めます。従業員の情報セキュリティの意識向上を図るとともに、必要な教育・訓練を継続的に実施します。
- 製品、サービスに関わる情報や重要インフラ、サプライチェーンの情報セキュリティについて、定期的に管理体制や対策実施状況の評価を行い継続的な改善を実施します。万一セキュリティ事故が発生した場合の対応体制を確立し、関係する組織との情報共有を行い迅速かつ適切な対応ができる仕組みを整備します。

労働安全衛生



安全実績

サンアロマーは、「全ての事故は避けられるものである」と信じ安全活動に取り組んでいます。

この信念の下、各事業所ではヒヤリハット活動・5S 活動・危険予知活動などの日常の活動、教育訓練、安全標語の募集など、さまざまな安全活動を実施しています。

「GoalZERO」のスローガンのもと、毎年 7 月の「全国安全週間」には、MC メンバー（社長、副社長、各本部長）の安全メッセージを電子メールで全従業員に配信、周知しています。

員に配信、周知しています。

ヒヤリハット活動では、提出件数とともに発生したヒヤリハットに対してリスクアセスメントを行い、適正な処置や対策を講じて、リスクの軽減に努めています。

また、協力会社とも定期的に安全会議等を開催し、事故防止のための取り組み（安全監査の実施、協定書による安全管理、安全活動の規定）を推進しています。

災害記録

労働災害は、2023 年の休業災害以降発生しておらず、2025 年末で 285 万時間連続無災害を記録しています。

発生しておりません。

引き続き、関係会社並びに協力会社の皆様のご協力と共に全員参加の安全活動を行って参ります。

設備災害は、2023 年の工場内火災事故以降は

災害件数(2021~2025 年)					
種別/発生年	2021 年	2022 年	2023 年	2024 年	2025 年
労働災害(休業)※	0	0	1	0	0
設備事故	0	0	1	0	0

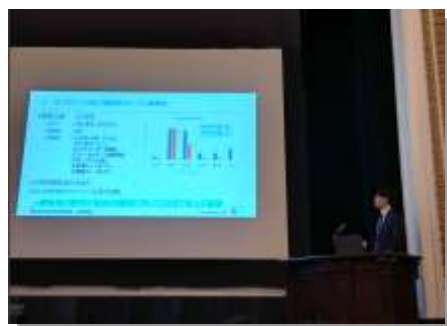
(※従業員、常駐・非常駐協力会社員計)

川崎工場 自主保安事業所交流会で技術伝承教育の取り組みを発表

2026 年 2 月 13 日、横浜市開港記念会館で開催された「自主保安事業所交流会」において、川崎工場 製造 Gr の山内さんが「川崎工場の自主保安活動の取り組み(技術伝承教育について)」をテーマに講演を行いました。

本交流会は、県・横浜市・川崎市・相模原市および神奈川県高圧ガス保安協会の共催により年 1 回開催されているもので、他事業所の自主保安活動の取り組みを知り、各社の保安活動の向上につなげることを目的としています。今回は川崎市消防局保安課からの依頼を受けて登壇しました。

当日は約 300 名が参加し、川崎工場で進めている技術伝承教育を中心に、自主保安活動への取り組みを紹介しました。今後も保安・安全のさらなる向上に向け、技術・知識の継承と人材育成に継続して取り組んでいきます。



全国安全週間

サンアロマーは、毎年「全国安全週間」にあわせて6月1日から6月30日までを準備期間、7月1日から7月7日を「全国安全週間」として、さらなる安全活動の活性化を図り、「安全は最優先であ

る」ことを全員で共有し、事故災害の未然防止に努めています。各事業所では様々な活動を実施しており、サンアロマー全体の活動として以下の活動を行いました。

- ・MCメンバーからの安全に関するメッセージ配信
- ・安全セミナーの開催
- ・全社員へ「私の安全宣言」の再確認(宣言内容再認識、未実施者への参加依頼)

全国安全週間（安全セミナーの開催）

サンアロマーでは、毎年7月の全国安全週間に合わせ、従業員向けの安全セミナーを実施しています。2025年は7月に安全セミナーとして、化学業界の安全にも精通している一般社団法人京葉人材育成会の中村昌允 名誉会長を講師に迎え、「製造業の変化とこれからの安全マネジメント」という演題にてご講演いただきました。内容は、これからの安全マネジメントとして考えなければならない、

- ① 「ゼロリスク」思考から、「リスクベースの安全マネジメント」への移行(ALARPの原則に則った安全マネジメント)
- ② “Process Safety”に基づき、設計段階から重大事故防止に重点を置く。
- ③ IoT、ICTなどコンピューター技術の進展を取り入れた「人と機械とが協調する安全マネジメン

ト」ということで、ご自身の経験を踏まえて、ALARP領域の考え方とその対応等を含む安全対策についての講演であり、とても考えさせられ参考になるものでした。セミナーは、ライブ配信に加え、録画でも配信し受講しています。



全国安全週間（MC メンバーからの安全に関するメッセージ配信）

毎年この時期にあわせて MC メンバーから全従業員に安全に関するメッセージを配信しています。そのメッセージの一部を以下にご紹介します。

高岡社長(当時)

皆さん、「ご安全に」

この言葉に対して何で会議前・後に発するんだらうという「疑問」を持つ人やそれほど意識なく耳にして言葉で発することに「慣れ」ている人もいます。人は生まれ育った環境によっては同じことでも「初めて・新鮮」「普通・当然」といったように多様な見方を持つものです。会社組織の中では、さらに年齢や経験も異なる多様な仲間が存在します。

四半期ごとのコミセン時や毎年この時期に活動する安全月間において「共通語」として安全に対して考える、振り返ることができます。また、日々の活動の中での気づきを仲間と「共有する」ことも多様な仲間の中では安全の第一歩としてとても大切なことです。

皆さんが今もこれからも持続的に安全に働ける職場を皆さん全員で築いていきましょう。

今日も気持ちに一呼吸、余裕をもって「ご安全に！」

安村副社長 / 経営管理本部長

「お前の考え方は間違っていないけど、怒ってても仕方ないだろう？ どうやったらお前の考え通り物事を進めることができるか、相手を説得できるのかをもう少し冷静に考えたら？」

誠にお恥ずかしいのですが、私が入社2年目のころ、指導係の先輩によく言われた言葉です。

～中略～

「基本的に同じ方向を向いているはずの人々でも、最も重要視していることは少しずつ違うケースもある」ことや「それぞれの部署に固有のストレス、プレッシャーが意思決定にも少なからず影響を与えている」ことなどを学びました。後者に関しては、たとえば営業車を運転することに伴う身体的負担や交通事故を起こした場合のリスクに関連する不安などは営業担当者に特有のものと思われ、24 時間操業の工場で働く製造担当者は、他部門担当者が感じることもない緊張感、ストレスを長時間にわたり感じているのではないかと思います。いずれにせよ、相手に特有の事情を理解することなく、自分が一面的に正義だと思っていることを押し付けていたことを、本当に恥ずかしく思います。

そもそも好みや考え方が異なり、さまざまなバックグラウンドを有する人々が集まっている我々の「職場」において、どうしたらお互い率直に意見を出し合い、時として健全な衝突を経ながらも組織として成長していくことができるのでしょうか？ 「多様な仲間と築く安全 未来の職場」という今年のスローガンを見て、あらためて上記の体験を思い出した次第です。

坂本取締役 / 製造本部長(当時)

今年の安全週間のスローガンは、「多様な仲間と 築く安全 未来の職場」です。

この言葉には、多様な背景を持つ私たち一人ひとりが協力し合い、共に安全な職場をつくっていかうという思いが込められています。

近年、私たちの職場にも新しい仲間が増えてきました。新しく加わった従業員の皆さんにとっては、工場のルールや作業手順を覚えるまでに少し時間がかかることもあるかもしれません。しかし、職場の安全ルールにはすべてに理由と背景があり、それらの目的を知ることによって理解も深まり、より安全な行動につながります。私自身、4 月から工場の実績検討会に参加するようになりました。そして、5 月からはその議題の順番を「安全」「品質」から始めるよう提案しました。これは、普段の業務の中でも「安全第一」の意識を自然と持てるようにするための取り組みです。コミュニケーションセッションの実績報告でも安全から始まり、MC の月次報告でも CSR 本部からの報告が先行しています。

私たち全員が、「安全はすべてに優先する」という意識を日頃から持ち、行動に移していくことが、安全で安心な職場づくりへの第一歩です。この安全週間をきっかけに、改めて自分の行動を振り返り、仲間と共に未来の安全な職場を築いていきましょう。

私の安全宣言

サンアロマーでは、2023 年より「私の安全宣言」活動を行っております。年末に次年度の安全活動に関し、各人取組む内容、特に意識して守る点を宣言し、これにより一年間、日々の生産活動の中で安全意識を高め、事故・災害を未然に防止することを目的としています。また、活動を実施し、その年度末(12 月)に 1 年間の活動について自己評価を行い、上司に提出します。上司はコメントを記入して

活動に関するフィードバックをすることにより、安全活動に関するコミュニケーションを図るということも重要なポイントとなります。作成した「私の安全宣言」については、事業所単位で掲示や社内イントラネットのわかり易い場所で誰もがすぐに確認できる状態にしています。以下に MC メンバーの「私の安全宣言」を掲載いたします。

橋本営業本部長

安全第一を自ら実践し、危険な時は迷わず止めることを誓います。

安村副社長 兼経営管理本部長

安全は心の余裕から！

大坪研究開発本部長

安心して働ける職場づくりを行います

坂本社長

安全は経営の最優先事項です。

私は、危険を見過ごさない文化を根付かせ、止める・呼ぶ・待つを徹底します。

南条取締役 兼製造本部長
兼大分工場長

皆さんとともに、常に安心して安全に働ける職場環境づくりを行います。

加藤サプライチェーン本部長

常に安全を意識します

富田常勤監査役

安全は事業の礎であることを常に意識し行動します

中島 CSR 本部長

安全が最優先される職場を維持し、ゼロ災を達成します。

江川工場長(川崎工場)

安全最優先で行動し、川崎工場に関わる全ての方が安心して誇りをもって働ける職場風土を醸成していきます！

安全活動の紹介

各工場では、以下の安全活動を行い、労働安全衛

生に努めております。

安全実技体験研修の実施

大分工場では、労働災害の“怖さ”を実際に体験してもらうため、体感教育を推進しています。クラスケミカル株式会社大分コンビナートで開催され

る安全実技体験研修に、サンアロマーの従業員も参加しています。

安全活動の表彰

川崎工場では、安全安定運転に貢献した従業員に対し安全活動表彰を実施しています。

昨年度は、2025 年 7 月と 2026 年 3 月に実施しました。



【安全表彰式の様子】



【ヒヤリハット表彰式の様子】

騒音管理と作業者の安全確保への取り組み

サンアロマーでは、工場内における騒音による健康影響を防止し、すべての作業者が安全かつ快適

に働ける環境を整備するため、以下のような騒音管理対策を実施しています。

耳栓の常時着用の義務化

工場の製造エリア全体において、作業には耳栓の着用を義務付けており、日常的な騒音からの聴

覚保護を徹底しています。

高騒音区域でのダブルプロテクションの導入

特に騒音レベルが高いとされる区域については、区域の出入口に注意喚起の表示を設置するとともに、耳栓に加えてイヤーマフの着用を義務付ける

「ダブルプロテクション」を採用しています。これにより、より高いレベルでの聴覚保護を実現しています。

騒音作業の明確化と作業手順への反映

騒音が大きいとされる特定の作業については、あらかじめ作業内容を指定し、防音保護具の着用を作業手順書に明記しています。これにより、作業者が適切な保護具を確実に使用できるようにして

います。今後も、定期的な騒音測定や作業環境の見直しを通じて、さらなる安全性の向上と作業者の健康維持に努めてまいります。

計画停止工事の実施

大分工場

2026年2月～4月にかけて、4年に一度の大規模な計画停止工事が実施されました。SDM協会による安全管理と協力企業の皆さまのご協力により無事故・無災害で達成することができました。今

回の計画停止工事では、各施設の検査のほか、保安に影響を与える危険源のリスク低減を目的とした設備の改造・更新を行いました。



【計画停止工事 朝礼の様子】

物流における安全管理

2025年には、3PL(3rd Party Logistics)体制のもとで物流の安全管理体制の維持・向上を目的とした物流監査を、大分工場、川崎工場のそれぞれの場内倉庫および契約倉庫5ヶ所で実施しました。また契約倉庫および輸送会社におけるヒヤリハットを用いた安全活動の結果、2025年は444件のヒヤリハットが報告され、全てに関して処置を完了しています。

さらにグループ会社における事故事例を関係する物流会社の方々と共有し水平展開することで、国

内物流における事故防止に取り組んでいます。



【物流監査の様子】

パートナーシップ構築宣言



サンアロマーは、2022年2月に経団連会長、日商会頭、連合会長及び関係

大臣(内閣府、経産省、厚労省、農水省、国交省)をメンバーとする「未来を拓くパートナーシップ構築推進会議」において創設された「パートナーシップ

構築宣言」の趣旨に賛同し、サンアロマーの「パートナーシップ構築宣言」を公表しました。サンアロマーは、この宣言の下、サプライチェーン全体での付加価値向上に努めて参ります。

「パートナーシップ構築宣言」とは？

サプライチェーンの取引先や価値創造を図る事業者の皆様との連携・共存共栄を進めることで、新たなパートナーシップを構築することを、企業の代表者の名前で宣言するものです。

イエローカード

一般社団法人日本化学工業協会が推進しているイエローカードについて、2019 年より運用を開始しています。これは、化学物質や高圧ガス輸送時の万一の事故に備え、運転手や消防・警察などの関係

者が取るべき処置を書いた緊急連絡カードのことであり、輸送中は常時携帯するものとなっています。



「ホワイト物流」推進運動 持続可能な物流の実現に向けた自主行動宣言

ホワイト物流は、物流業界の働き方改革ともいえる運動であり、その実現には荷主のコンプライアンスが重要になっています。サンアロマーはこの運動の趣旨に賛同し、2019 年 9 月に自主行動宣言を行い、以下のように取り組んでいます。

(取り組み方針)

事業活動に必要な物流の持続的・安定的な確保を経営課題として認識し、物流の生産性向上と働き方改革の実現に向け、取引先や物流事業者等の関係者との相互理解と協力のもとで、物流の改善に取り組めます。

(法令遵守への配慮)

法令違反が生じるおそれがある場合の契約内容や運送内容の見直しに適切に対応するなど、取引

先の物流事業者が労働関係法令・貨物自動車運送事業関係法令を遵守できるよう、必要な配慮を行います。

(契約内容の明確化・遵守)

運送および荷役、検品等の運送以外の役務に関する契約内容を明確化するとともに、取引先や物流事業者等の関係者の協力を得つつ、その遵守に努めます。

「ホワイト物流」推進運動とは？

トラック運転者不足が深刻になっていることに対応し、国民生活や産業活動に必要な物流を安定的に確保するとともに、経済の成長に役立つことを目的として、以下に取り組む運動です。

1. トラック輸送の生産性の向上・物流の効率化
2. 女性や 60 代以上も働きやすい、より「ホワイト」な労働環境の実現

物流 2024 年問題対策

「物流 2024 年問題」とは、働き方改革関連法により、2024 年 4 月からトラックドライバーの時間外労働時間が年間 960 時間に制限されたことに起因する、物流業界全体への影響を指します。

サンアロマーは、これらの課題について、3PL 委託会社の山九株式会社と共に、納品先との契約見直し(付帯作業の削減等)、モーダルシフト(鉄道・船舶)への転換を進めること等で対応しています。

今後もこれら課題についての対応を継続して行

っていくことで、安定・確実な物流配送を維持し、お客様へ製品をお届けして参ります。

物流 2024 年問題とは？

<主な背景と課題>

- ・制限内容: トラック運転手の時間外労働が年間 960 時間に制限(休日労働を含む)
- ・背景: 長時間労働・低賃金・人手不足の慢性化
- ・物流への影響: 輸送能力の 14%減(2030 年には 34%減の可能性)
- ・考えられる社会的影響: 商品配送の遅延、物流コストの上昇、消費者価格への影響

健康管理・メンタルヘルス

健康障害を防止し、快適な作業環境の形成を推進するとともに職場生活における心身両面の健康

を保持・増進するため次のような取り組みを行っています。

ラジオ体操の実施

健康づくりのためにラジオ体操の実施を推奨し、各事業所でラジオ体操やアクティブ体操を行っています。

メンタルヘルス対策

全社で法律に基づくストレスチェックを実施しています。集団分析結果に基づく職場改善対策について、各事業所の安全衛生委員会で検討、実施され

ます。なお、会社全体に及ぶ改善については、本社の安全衛生委員会が主導して検討、実施しています。

インフルエンザ予防接種の推進

毎年、重症化リスクの軽減等のため、季節性インフルエンザの予防接種を円滑に実施できる体制を整えています。

受動喫煙防止対策

2020年4月1日より改正健康増進法が施行され、設置基準に準拠した専用喫煙室および屋外喫煙所の運用を開始しております。また、サンアロマーでは禁煙計画を作成し、禁煙希望者への禁煙

支援やポスター等による禁煙の推進、2022年4月からは「就業時間中禁煙」のテスト運用を開始しました。尚、「就業時間中禁煙」は2023年4月から正規運用として継続しております。

女性従業員の働く環境の改善

大分工場では、近年女性従業員が増加傾向にあります。しかし、製造現場に専用施設がなかったことから、2020年に女性用更衣室と女性用トイレを設置するなど、女性従業員の働く環境の改善に努

めています。

川崎工場でも同様に、2024年に製造現場建屋内に女性用更衣室を設置しています。

BCP(事業継続計画)の取り組み



サンアロマーでは、定期的に BCP の危機対応訓練を行っています。

BCP 訓練(情報公開対応訓練)

サンアロマーでは BCP 訓練の一つで災害や不祥事などのクライシスが発生した際の情報公開対応の訓練を定期的に行っています。ステークホルダ

ーへ誤ったイメージを与えないために、速やかに適切な情報公開ができるよう工場での大規模災害が発生したという想定で模擬訓練を行いました。

総合防災訓練

2025 年 3 月に、シナリオ非開示型 BCP 訓練を実施しました。

訓練内容は、大分県地域に最大震度7の大地震が発生したことを想定し、災害発生時に初動として何を行わなければならないのかを考え、また初期情報がある程度収集できた段階で、MC メンバーが会社としての今後の対応、方針を検討し、決断をするといった模擬体験で、サンアロマーとしては初めての試みでした。

社長が不在で連絡が取れないという想定で、副社長をトップとする災害対策本部では活発な議論が行われ、いくつか課題や改善案を抽出することが

できました。これらの反省を踏まえ、2025 年 9 月に第 2 回訓練を開催しております。



【訓練時の様子】

品質に関する基本方針

品質に関する基本方針

1. 品質は、サンアロマーの事業においての本質であり、その継続的改善を通じてお客様の信頼を得る。
 2. 品質の尺度は、サンアロマーの提供する製品およびサービスに対するお客様の満足であり、お客様のニーズに合致していなければならない。
 3. 品質の管理は、製品の開発から、原材料の管理、製造、販売、物流を含めた全ての事業活動に亘るものである。
- サンアロマーは、この方針のもとで品質マネジメントの有効性を継続的に改善する。

品質保証

サンアロマーの「Excellent Company」に記載された「品質の良い製品と優れたサービスを提供する会社」にもある通り、企業活動の基軸として品質管理体制の向上に取り組み、お客様の期待に応える安定した品質とサービスの提供を目指しています。

そのために、「品質に関する基本方針」として品質をサンアロマーの事業においての本質と据え、お客様の満足が品質の尺度と考えて、製造本部、品質保証室だけでなく全社が連携して、品質のさらなる安定と向上に向けて品質マネジメントシステムの継続的改善に取り組んでおります。

製品品質管理

品質保証体制

サンアロマーでは、品質の管理が全ての事業活動に亘るとの方針に基づいて、ISO9001:2015 の認証を、工場のみならず研究開発本部や営業本部なども含めた全社で取得しております。

毎年、品質だけでなく全社マネジメントシステムの中でマネジメントレビューが実施され、品質管理活動、目標に対してのアウトプットが示されます。このアウトプットを踏まえた次年度の品質目標が立て

られて、継続的な改善が進められます。

また、サンアロマーは品質に関する教育や意識調査も全社員に対し実施しております。2025 年は 10 月に品質コンプライアンス意識調査を実施、11 月の品質月間時には品質管理責任者による品質月間メッセージの配信と共に過去 1 年間の品質不適合事例資料の配信を行い、品質に関する意識の向上に取り組んでいます。

品質保証・管理の取り組み

サンアロマーでは、お客様での製品用途や使用分野に応じた製品リスクを評価し、それらに適したリスク管理を行い、お客様に安心してサンアロマー製品を使用していただけよう努めております。

お客様のニーズに合致した安定した品質とサービスを提供できるよう、今後も引き続き、継続的改

善と適切なリスク管理を行っていきます。

製品試験成績表は、希望されるお客様に対して、出荷時に PDF ファイルでメール送信しております。また、ご希望によっては FAX での送信を行っています。

品質データ管理システム

品質保証および製品開発の試験データを自動的に取り込む「品質情報管理システム」を導入しています。これにより、物性測定データの誤転記、入力ミス、データ改ざんの防止を含む品質問題リスクの低減も図られ、また基礎データの収集の効率化により製品開発における物性予測の精度の向上が可能となりました。これらは、より良い製品のご提供を目指し実施しているものです。

製品安全管理

近年の化学物質管理への要求の高まりから、サンアロマー製品に対してもお客様から環境負荷物質の含有や法規適合性についてのお問い合わせが増加しております。

サンアロマーでは製品ごとに安全性と取り扱い方法等の情報を記載した Safety Data Sheet (SDS) と、国内外の法規適合性(化審法、労働安全衛生法、各国インベントリー登録、欧州 REACH、など)や含有化学物質等の情報を記載した Product Stewardship Bulletin (PSB) を準備し、サンアロマーのホームページでこれらの情報を公開しております。また、お客様ごとにご要望内容が異なるグリーン調達へのお問い合わせにも、個別に対応しております。

サンアロマーは、経済産業省が開発した、サプラ

また、2025 年に新たに「傾向管理システム」を導入し、2026 年からの運用をスタートしております。製品品質のばらつきを視覚的に容易に把握できるようになると共に、異常検出時にはシステムが警告メールを自動送信し、問題の早期発見が行えるようになり、問題の発生リスクの高い製品の流出防止が迅速にできることが期待されます。

イチェーンにおける、新たな製品含有化学物質情報の伝達スキームである

「chemSHERPA」(ケムシェルパ)に当初から賛同し、アーティクルマネジメント推進協議会(JAMP)における MSDSplus から chemSHERPA への移行については、完全移行時期(2018 年 4 月)に先駆けて完了しております。

今後も引き続き、化学物質に関する国内外の法規制の変更やお客様の動向を注視して、環境・安全・健康・法令遵守・お客様のニーズを考慮した製品安全管理を推進していきます。

TOPICS

製品安全管理の説明会の実施

様々な法規適合性、環境負荷物質の含有などの化学物質管理について、お客様でもあるパートナーの皆様へ説明を行いました。

食品接触用途における製品の安全性確認

サンアロマーでは、食品容器など食品と直接接する用途に使用される製品について、消費者の安全を最優先に考え、関連法令および各種基準への適合性を厳格に確認しています。

該当製品については、用途に応じて「厚生労働省告示第 370 号」試験や「乳等省令(乳及び乳製品の成分規格等に関する省令)」の基準に適合していることを確認しています。これらの試験・基準は、食品と接触する材料の安全性を評価するために定め

られたものであり、サンアロマーでは第三者機関による試験結果や社内検証を通じて適合性を確保しています。

製品の安全性については、設計・開発段階から、食品接触用途に適した材料選定を行い、法令に基づいた安全性評価を実施しています。これにより、製品が市場に出る前の段階で、食品衛生上のリスクを排除する体制を整えています。

取り扱い化学物質の管理

サンアロマーで扱う化学物質については、サプライヤーから SDS を入手し、安全性評価を実施し、適正に管理しています。また事業所内で取り扱う際

のリスク評価を実施し、リスク低減のための必要な対策を講じ、作業者の安全を確保しています。

PRTR 対象物質の管理

サンアロマーで取り扱っている化学物質のうち、数種類が PRTR 法で定められた対象物質に該当します。対象物質については排出量・移動量のマテリアルバランスを把握しています。このうちノルマルヘキサンは法改正で 2010 年の使用分から報告義務対象物質となり、報告を行っています。また 1 トンを超えた一部添加剤も報告を行っています。他の

物質は取扱量が少なく(1 トン未満)、報告対象外でした。

PRTR 法とは？

有害性の恐れのある化学物質が、環境(大気・水・土壌)に排出された量および、廃棄物に含まれて事業所外に運び出された量を把握・集計・公表する仕組みのこと。

化学物質管理システム

近年、製品に含まれる化学物質の安全性が問われ、新たな化学物質使用の規制、国内外の関連法規の改定が増加しており、社内のデータ一元化、ヒューマンエラー防止、効率化、法令改正時の迅速な対

応を図るため、2021 年以降化学物質管理システムを導入しています。これにより、国内外の関連法規改定において、迅速且つ正確な判断と情報提供を行っています。

コンプレイン事例集発行による品質レベルの向上

クレーム・コンプレインの再発防止とお客様満足度および CX(Customer Experience の略で「顧客体験価値」のこと)向上を目的とした社内教育教材として「コンプレイン事例集」を編纂しました。

この事例集では、各コンプレイン事例について技術的な背景まで分かりやすく明確に解説しており、再発防止対策の妥当性確認や予防対策に非常に有効で、コンプレイン発生減少や、不適合製品発生防止に役立つものです。本事例集については、2020

年のグループ会社の品質保証責任者会議でベストプラクティスとして取り上げられた他、ISO9001 品質マネジメントシステムの第三者監査においても他社では見られない取り組み、充実点として評価されています。

現在、社内関係部門の教育資料としても活用されており、この事例内容を理解することにより、優れた製品・サービスを提供し、お客様の満足度の向上を目指しています。

品質クレーム件数

2025 年のサンアロマー基準による重大品質クレームは 1 件発生しております。

ここ数年、品質クレームの件数は低水準で推移していますが、2025 年度は重大品質クレームが発生しました。発生した事案については原因を分析し、是正措置および再発防止策を実施しています。品質に対するお客様の要求が年々高まっていることを踏まえ、今後も CX の観点を取り入れるとともに

に、品質マネジメントシステムの継続的改善を進め、品質不良の発生防止と流出防止の強化に取り組み、品質クレームの継続的な低減を目指します。

品質は、サンアロマーの事業活動においての本質であり、その継続的な改善を通じて、お客様をはじめ、全てのステークホルダーの皆様の信頼が得られるよう、今後もこのような活動を継続して取り組んでいきます。

取引先とのかかわり



サンアロマーの事業活動に関わるパートナー

サンアロマーでは、製品開発から原材料、製造、販売、物流を含めた様々な事業活動に関わるパートナー会社、パートナーの皆様とともに事業活動を行っています。

サンアロマーは、これからも全てのパートナーの皆様とともにお客様のもとへ製品をお届けしていきます。

サステナブル調達

サンアロマーは、2018 年に「サステナブル調達ガイドライン」を基にした CSR 調達活動を計画し、2019 年からこの計画に沿った活動を開始しています。

供給者監査は 2005 年より調達部門が実施しております。その内容は、サプライヤーの工場を訪問し、調達部門の視点で品質や購入品の安定供給等に関する確認を実施するもので、2025 年は供給者監査(現地監査)を 5 件実施しました。

また、2019 年からは CSR 調達の取り組みとし

て、サプライヤーへ CSR 質問票を送付し回答してもらうことを行っています。これにより、サプライヤーの CSR への取り組み状況などを確認すると共に、上記ガイドラインを了知していただくことで、協働でガイドラインを遵守し、お互いの企業価値を向上していく意識につながることを期待しています。

2025 年は、供給者監査とは別の取り組みとしてサプライヤー5社に対して CSR 調達質問票を送付し、「サステナブル調達ガイドライン」を共有、ガイドラインのご理解とご協力を要請しました。

紛争鉱物への取り組み

コンゴおよび隣接する国々で採掘される鉱物(スズ、タンタル、タングステン、金)は、これを購入することで現地の武装勢力の資金調達につながり、結果として地域の紛争に加担し、人権侵害、環境破壊を引き起こしているとして国際的に大きな問題となっています。サンアロマーでは、責任ある鉱物イニシアチブ RMI(Responsible Minerals Initiative)の考え方に準拠し、RMI で認証された製錬所に限った鉱物調達を調達先(パートナー)の皆様へ推奨するとともに、調達先の皆様のご協力を得て、毎年調査を行い、紛争鉱物を使用していな

いことを確認しています。

また、「サステナブル調達ガイドライン」においても「コンフリクトフリー(紛争に関わらない)鉱物の調達におけるサプライチェーンの透明性を向上させ、責任ある材料、部品の調達を実践しなくてはなりません。」と記載されており、調達先に対してこれらを購入・使用しない取り組みを進めています。

昨今の「責任ある鉱物調達」に対する社会動向も踏まえ、上記 4 鉱物に加えて、コバルトとマイカ、更に 2025 年度からは、銅、黒鉛、リチウム、ニッケルについても同様の取り組みを行っています。

人権の尊重

サンアロマーは、「人権の方針」、「環境方針」、「腐敗の防止方針」に関わる方針を定めています。「クラサスケミカルグループ 人権方針」においても事業活動を通じて社会課題の解決に貢献していくことが定められております。

クラサスケミカルグループであるサンアロマーにおいても、この原則、方針に準拠し、事業活動のあらゆる局面において人権を尊重するとともに、人権への負の影響の防止に努めています。

人権方針

サンアロマーの「人権方針」をご紹介します。サンアロマーは、2025 年にクラサスケミカルグループ発足を機に、新たに人権方針を設定いたしました。

今後、この方針のもと、人権への取組みを推進していきます。

人権方針

クラサスケミカルグループは

- ・ビジネス上の意思決定に際して、事業活動を行う各国・地域で適用される全ての人権尊重に関する法令や手続きを遵守します。万が一、当該国・地域の法令と国際的に認められている人権原則との間で差異や矛盾が生じる場合や、相反する要求に直面した場合には、国際的に認められている人権原則を尊重する方法を追求します。
- ・全ての人の尊厳が確保され、誰もが等しく尊重される社会の実現のために、国連「ビジネスと人権に関する指導原則」に則り、事業活動に伴う人権侵害のリスクを特定し、防止し、軽減し、救済に努めます。
- ・人権を配慮した事業活動を行うことで、共に働く人々を守り、共により良い社会をつくっていくビジネスパートナーやお客さま、地域社会からの信頼を得るよう努めます。

人権教育

サンアロマーでは、共により良い社会をつくっていくビジネスパートナーやお客様、地域社会からの信頼を得るために、サンアロマー従業員一人ひとりが人権を尊重した行動がとれるように、全従業員に研修を通じた人権の社内浸透を図っています。

サンアロマーは、2015 年から外部講師による「企業に求められる人権」や、法務省の「主な人権課題 16 項目」を網羅する研修により社内浸透を図

てまいりました。

2020 年からは、これまでの活動に加え、グループ会社としての人権教育にも参加しています。研修に参加できなかった従業員にたいしては、後日自習および課題を実施することにより、全従業員への教育を完了しています。

今後も全社教育を行い、人権尊重の意識の向上に努めていきます。

- ・2023 年「従業員アセスメント」実施と「ビジネスと人権」研修
- ・2024 年「ビジネスと人権 2023 基礎」研修
- ・2025 年「ビジネスと人権 基礎」研修

人権週間メッセージの配信

毎年12月の人権週間、12/10の「世界人権デー(Human Rights Day)」に合わせて、CCQOから人権週間に向けたメッセージを全従業員に向

け発信し、人権について改めて考える機会としています。

人権週間に寄せて CCQO メッセージ(2025年12月)

12月10日は、国際連合が「世界人権宣言」を採択した日であり、「人権デー」と定められています。これに伴い日本では、法務省が12月4日から10日までの一週間を「人権週間」と定め、さまざまな啓発活動が行われます。

人権については、学生時代に次のように学んだ方も多いのではないのでしょうか。(世代によって表現は異なるかもしれませんが……。)

「人権とは、人間であるというだけで誰もが生まれながらに持っている、侵すことのできない基本的な権利のこと」。この考え方は、主に個人の権利を中心に捉えたものです。しかし現代社会、特にビジネスの場面においては、この枠を超えて、企業活動や社会との関わり方そのものも人権の一部として考えられるようになってきています。

例えばサプライチェーンでは、紛争地域で採掘された原料(コンフリクトミネラル)の使用や、人体に有害な原料を用いた製品の販売が問題視されています。また工場においては、環境汚染や地球温暖化への影響も、人権侵害の一部として認識されるようになっていきます。

一方で、個人についても、より厳格にお互いの権利を尊重し合う社会へと変化しています。パワハラやセクハラの防止はもちろん、LGBTQ+への理解、個人情報の保護など、日常生活の中で一人ひとりが意識すべきことは数多くあります。

この人権週間を利用して、各人の業務・職場が人権とどのように関わっているのか見つめ直す機会として下さい。

人権に関する相談は、内部通報制度を利用することが可能です。現在、内部通報窓口は、サンアロマーの他、この度クラサスケミカルにも内部通報窓口が設置されており、そちらも利用可能となりました。悩んだり迷ったりしている場合は、いずれかの窓口へ相談してみてください。

CSR 本部長 兼 CCQO 中島 治継

健康経営宣言

サンアロマーで働く従業員とその家族の心身の健康が経営の重要な基盤と考え、「従業員を元気にする！」を目標に働きやすく、働きがいのある環境を整備し、健康管理体制を構築しています。また疾病の予防や改善にとどまらず、クラサスケミカルグループの一員として、従業員の健康意識(ヘルスリテラシー)の向上を目指します。

具体的には以下の取り組みを行っています。

- ・定期健康診断、婦人科がん検診、家族の生活習慣病検診
- ・専門ドックの受診環境の整備
- ・従業員自ら健康に取り組める KPI を設定し、

達成するなどの健康意識の促進

- ・「こころと身体の健康について」定期的な情報発信
- ・メンタルヘルス、ハラスメントの窓口を全従業員に周知し、安心して相談できる環境を整備

2021 年からは、「健康保持・増進プラン」として全従業員に個別に健康増進に関する活動、及び目標を設定してもらい、その達成に向けた取り組みを実施しています。各年の目標達成率は以下の表のとおりとなっております。2026年度も引き続き実施していきます。

年度	2022 年	2023 年	2024 年	2025 年
「健康保持・増進プラン」 達成率(%)	64	66	63	62

健康経営優良法人 2026(中小規模法人部門)に認定されました！



サンアロマーは、経済産業省と日本健康会議が認定を行う「健康経営優良法人認定制度」において、「健康経営優良法人 2026(中小規模法人部門)」に 4 年連続で認定されました。

サンアロマーは、社員とその家族の心身の健康に配慮した健康経営に取り組んでいます。このたびの認定を踏まえ、これからもヘルスリテラシーの向上を図っていきます。

「健康経営優良法人認定制度」とは？

地域の健康課題に即した取組や日本健康会議が進める健康増進の取組をもとに、特に優良な健康経営を実践している大企業や中小企業等の法人を顕彰する制度です。

ダイバーシティ&インクルージョンの推進活動



サンアロマーは、ダイバーシティ&インクルージョン(D&I)の推進に取り組んでいます。

<仕事と家庭の両立支援>

「柔軟でメリハリのある効率的な働き方をより一層可能とする」

とともに、「多様化する従業員の生活上のニーズに応える」ため、育児・介護休業法の各種制度に関する法定を上回る制度や、フレックスタイム、テレワーク等の柔軟な働き方に資する制度、積立休暇利用制度(私傷病、介護、子の学校行事、臨時休校、特定不妊治療、他)等を整備しています。

次世代育成支援対策推進法に基づく子育てに関する「一般事業主行動計画」は厚生労働省「両立支援のひろば」に掲載している行動計画を右記にご紹介します。

サンアロマー株式会社 行動計画

社員が仕事と子育てを両立させることができ、すべての社員がその能力を十分に発揮できるようにするため、次のように行動計画を策定する。

1. 計画期間 2026 年 1 月 1 日～2030 年 12 月 31 日
2. 内容

目標 1: 計画期間中の男性育児休業取得者平均 80%/年以上継続(前期間実績約 87.5%) (※全国平均(2024 年度):40.5%)

<対策>

- 2026 年 3 月～ 育児休業、育児休業給付、育休中の社会保険料免除等制度について情報整理
- 2026 年 4 月～ 育児休業、育児休業給付、育休中の社会保険料免除等制度の周知や情報提供を行う
- 2027 年 1 月～ 2026 年度男性育児休業取得状況確認
- 2027 年 3 月～ 取得状況踏まえた上で、人事内で取得率向上のための施策考案し、実行

目標 2: 所定外労働時間を 15 時間/月に削減(前期間実績約 17.5 時間/月) (※製造業平均(2024 年 4 月～2025 年 3 月):15.5 時間)

<対策>

- 2026 年 2 月～ 上司による、部下の勤怠管理把握の徹底
- 2026 年 3 月～ 所定外労働時間が多い社員について、所属長へ注意喚起実施
- 2026 年 8 月～ 年休取得奨励実施
- 2027 年 2 月～ 2027 年度所定外労働時間データ確認
- 2027 年 3 月～ 所定外労働時間データを踏まえた上で、人事内で所定外労働時間削減のための施策考案・実施

従業員エンゲージメント調査実施

2024 年に続き 2025 年にも従業員エンゲージメントに関する調査を実施しました。本調査は、従業員のエンゲージメント(仕事や組織への愛着、貢献度意欲)の状態を可視化し、今後の組織課題を

特定し具体的な改善施策につなげていくことを目的として実施しました。

この結果を受けて、本部毎に課題の抽出とその対策を行っております。

人材育成

研修体制として、全社教育を計画的に実施しております。例えば、全従業員が参加する品質教育、コンプライアンス教育、次世代育成プログラム、指名

型派遣研修である GLOBIS、自己啓発として、e-ラーニング、通信教育、語学補助などを行っています。

働き方改革への取り組み

サンアロマーでは「柔軟でメリハリのある効率的な働き方をより一層可能とする」とともに、「多様化する従業員の生活上のニーズに応える」ため、コア

タイムなしのフレックスタイム制の導入と、在宅勤務制度をより活用しやすくする運用を実施しています。

CX 活動

CX とは、Customer Experience の略で、「顧客経験価値」や「顧客体験価値」という概念で用いられています。

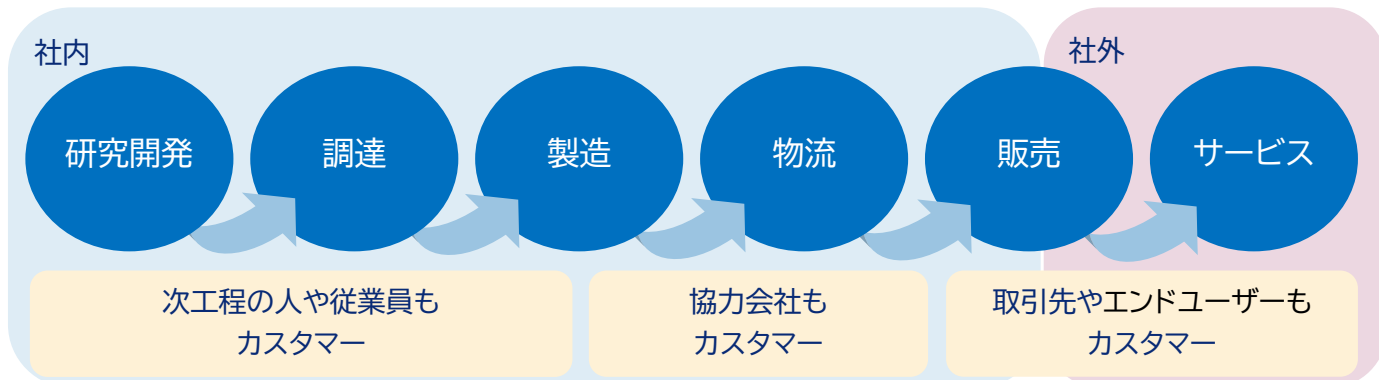
サンアロマーでは、この CX の最大化を目指しており、一人ひとりが自分自身のお客(= Customer)に対して、より良いサービスを提供し、「あなたに頼んでよかった！」と思う経験(= Experience)をしていただくことで、次回もあなたに頼みたいと思われるような関係を築き、お客様から選んでいただける企業を目指しています。また、CX における「Customer」は社内外のどちらにも存在しており、全従業員が CX を意識し業務を行うことで、企業全体としてのサービス向上になり、それが最終的に会社の利益へとつながり、全ステークホルダーへ還元されることを期待しています。

2020 年から社内周知活動を開始し、動画視聴や職場内ディスカッション、全従業員を対象としたオンライン研修などを実施し、従業員の CX 最大化

や、理解を深める教育活動を行っています。

また、グループ会社の 2025 年度の「AHA! (Awards of Harmony, アハ!)2025」(2025 年度はグループ会社の世界中の拠点から、全 958 チーム、延べ 12,097 人のエントリーがあった CX 活動発表会)において、サンアロマーからエントリーした『断捨離で業務効率化』(製造本部川崎工場 BIG BOSS チーム)が 11 月の最終選考会に出場しました。残念ながら受賞とはなりませんが、本取り組みは、日常業務や管理業務を見直すことで個人の生産性や業務の質が向上し、より良い品質のものを社会へ提供することが可能とする、まさに CX の視点を踏まえた活動でした。また、この成果は、ただ効率化したということだけでなく、「個人と会社が一緒に成長しながら、やりがいを感じられる職場」へと進んでいる証でもありました。

今後とも CX の視点を大切にしながら、引き続き活動を行っていきます。



会社情報

会社情報

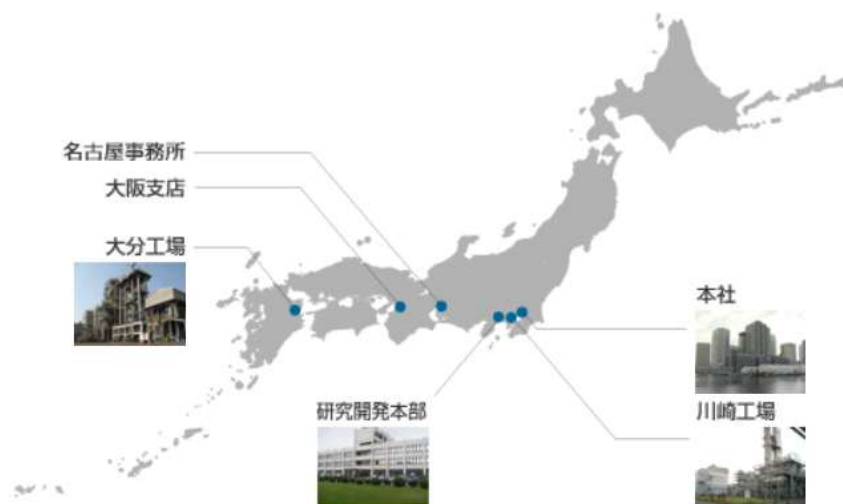
会社概要

社名	サンアロマー株式会社	従業員数	約 233 名
英文社名	SunAllomer Ltd.	年間売上	710 億円(2025 年実績)
設立	1999 年 6 月 1 日	生産能力	408,000T/年
本社所在地	〒140-0002 東京都品川区東品川二丁目 2 番 24 号 (天王洲セントラルタワー27 階)	役員	代表取締役社長 坂本 浩基
資本金	62 億円		代表取締役副社長 安村 巖
代表者	代表取締役社長 坂本浩基		取締役(常勤) 南条 徹
事業内容	合成樹脂の製造・加工及び販売		取締役 福田 浩嗣
決算日	12 月 31 日		取締役 橋田 裕一
株主	クラサスケミカル株式会社 ENEOS 株式会社		取締役 矢崎 靖典
			監査役(常勤) 富田 博之
		監査役 横山 和生	
		監査役 島田 武浩	
		(2026 年 4 月 1 日現在)	

沿革

1955 年	日本石油(株)の全額出資により、日本石油化学(株)設立、石油化学事業に進出
1957 年	昭和電工(株)、石油化学事業に進出 日本石油化学(株)エチレン設備完成、川崎コンビナート操業開始
1969 年	昭和電工(株)大分石油化学コンビナート竣工、12 月ポリプロピレン設備完成、操業開始
1989 年	日本石油化学(株)コンビナートに UPP(浮島ポリプロ(株))のポリプロピレン設備完成
1993 年	昭和電工(株)大分・気相法ポリプロピレン 設備完成
1995 年	JPO(日本ポリオレフィン(株))設立、昭和電工(株)・日本石油化学(株)から事業譲渡
1996 年	JPO と Montell(現 LyondellBasell)が共同で MJC(モンテル・ジェイピーオー(株))設立、JPO から MJC に自動車用途ポリプロピレン事業を譲渡
1999 年	MSS(モンテル・エスディーケー・サンライズ(株))設立、JPO からポリプロピレン事業を譲渡
2000 年	大林産業(株)と共同で韓国にポリミレイ社設立
2001 年	MSS からサンアロマー(株)へ社名変更
2002 年	サンアロマー(株)が日本石油化学(株)から UPP(浮島ポリプロ(株))株式を全株譲渡
2007 年	UPP を解散し、サンアロマー(株)に事業譲渡
2010 年	生産能力を約6万トン増強、新プロセス技術の導入
2016 年	LyondellBasell が保有する全株式を昭和電工(株)(現(株)レゾナック)と JX エネルギー(株)(現 ENEOS(株))が取得
2023 年	昭和電工株式会社が持株会社制に移行するに伴い、昭和電工株式会社が保有する全株式を株式会社レゾナックに移管
2025 年	株式会社レゾナックの石油化学事業分社化に伴い、株式会社レゾナックが保有する全株式を分割新会社クラサスケミカル株式会社に移管。クラサスケミカルグループ発足。

サンアロマー所在地



所在地一覧

本社	〒140-0002 東京都品川区東品川二丁目 2 番 24 号 天王洲セントラルタワー27 階 地図
大阪支店	〒530-0017 大阪府大阪市北区角田町 8 番 1 号 大阪梅田ツインタワーズ・ノース 19 階 リージャス大阪梅田ツインタワーズノースビジネスセンター内 地図
名古屋事務所	〒450-0002 愛知県名古屋市中村区名駅 2-45-14 東進名駅ビル 4F リージャス名古屋駅東口ビジネスセンター内 地図
研究開発本部	〒210-0863 川崎市川崎区夜光二丁目 3 番 2 号 ENEOS 株式会社 川崎製油所 川崎地区(塩浜)内 地図
川崎工場	〒210-0865 川崎市川崎区千鳥町 13 番 1 号 ENEOS 株式会社 川崎製油所 川崎地区(千鳥)内 地図
大分工場	〒870-0111 大分県大分市大字中ノ洲 2 番地 大分石油化学コンビナート 地図

組織図



財務・非財務データ

財務データ

財務データ	2021 年	2022 年	2023 年	2024 年	2025 年
資本金	62 億円	62 億円	62 億円	62 億円	62 億
決算日	12 月 31 日	12 月 31 日	12 月 31 日	12 月 31 日	12 月 31 日
年間売上	574 億円	731 億円	715 億円	745 億円	710億円
生産能力	408,000T/年	408,000T/年	408,000T/年	408,000T/年	408,000T/年

非財務データ

環境		2021 年	2022 年	2023 年	2024 年	2025 年
GHG 排出量(千t) ^{※1}		80	75	71	66	63
エネルギー消費量 ^{※1} ^{※2}	総消費量(千 GJ)	1,597	1,582	1,358	1,200	1,108
	非化石エネルギー 割合(%)	—	—	14.1	18.1	16.4
CO ₂ 排出量 ^{※1}	Scope1の総排出量(千t- CO ₂)	0	0	0	0	0
	Scope2の総排出量(千t- CO ₂)	80	75	71	65	61
PRTR 法対象物質の総排出量 ^{※1} (t)		6.7	42.5	5.6	7.3	5.2
VOC 排出量 ^{※1} (t)		8.8	68.1	6.7	9.8	6.9
水の総消費量	水使用量(千m ³)	535.8	545.6	538.8	530.3	491.1
	排水量(千m ³)	595.8	545.2	564.6	523.5	522.4
	循環冷却水使用量 (千m ³)	43,806	40,713	42,455	42,236	43,499
産業廃棄物発生量	有害(特定有害産業廃棄物)(t)	0.00	0.00	0.36	0.35	0.08
	非有害(t)	209	210	149	153	133
	回収再利用(t)	209	208	144	150	133
産業廃棄物最終埋立処分率(%)		0.00	0.01	0.04	0.07	0.08
廃プラスチック有効利用率(%)		99.2	99.2	99.0	97.9	98.8
環境投資金額(百万円)		0.0	9.4	9.9	9.9	19.4

^{※1} 各年 4 月から翌年 3 月のデータです。

^{※2} 2023 年実績からは改正省エネ法の基準に従い算出した結果となります。

非財務データ

労働と人権		2021 年	2022 年	2023 年	2024 年	2025 年
労働災害 インシデント (従業員,常駐・非常 駐協力会社員)	件数(不休以上)(件)	0	1	3	2	0
	全度数率	0.00	1.03	3.65	2.26	0.00
	強度率	0.00	0.00	0.02	0.00	0.00
	損失日数	0	0	19	0	0
従業員数(人)		222	225	232	228	233
女性従業員の割合(%)		14.1	15.0	14.9	15.8	16.3
管理職に占める女性従業員の割合 ^{※注} (%)		—	—	10.4	9.8	9.4
男性従業員の育児休業取得率(%) (正社員)		—	—	67	25	111
人権に関する研修を受けた従業員の割合(%)		100	100	100	100	100
倫理		2021 年	2022 年	2023 年	2024 年	2025 年
倫理に関する研修を受けた従業員の割合(%)		100	100	100	100	100
内部通報に関する件数(件)		0	0	1	1	2
情報セキュリティインシデント(件)		0	0	0	0	0
持続可能な資材調達		2021 年	2022 年	2023 年	2024 年	2025 年
紛争鉱物の情報(CMRT、EMRT)入手率(%)		100	100	100	100	100
その他		2021 年	2022 年	2023 年	2024 年	2025 年
品質クレーム件数(サンアロマー基準)(件)		0	1	0	0	1

※注) 1 女性活躍推進法および育児・介護休業法に基づく情報公表を行っていない指標については「—」と記載しております。

2 女性活躍推進法の規定に基づき算出したものであります。

3 管理職に占める女性労働者の割合は 2025 年 12 月時点の実績です。



SunAllomer Ltd.

サンアロマー株式会社

東京都品川区東品川二丁目2番 24 号

天王洲セントラルタワー 27 階

〒140-0002

<https://www.sunallomer.co.jp/>

お問い合わせ先

<https://www.sunallomer.co.jp/inquiry.html>

CSR 本部 環境安全・CSR 推進室 宛